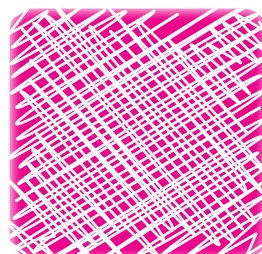
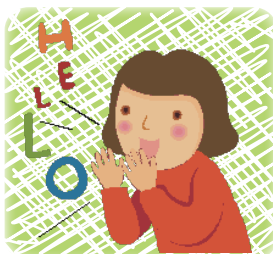
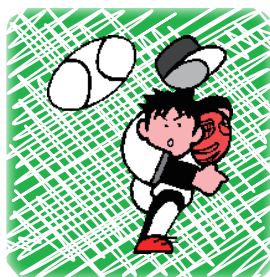
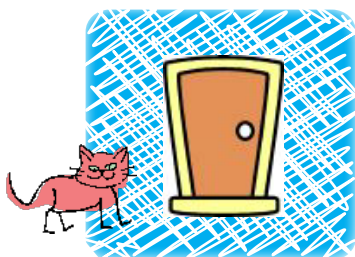
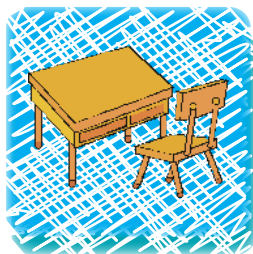


Nagoya University Global Network



2012年度活動報告書 名古屋大学国際交流グループ

スモールワールド・コーヒーアワー
ヘルプデスク
ランゲージシャワー
留学のとびら
ACE
NUFSA
MEIPLES・IFON
NUELC

● 目 次

0.	名古屋大学国際交流グループ紹介	1
1.	スモールワールド・コーヒーアワー	3
2.	ヘルプデスク	15
3.	ランゲージシャワー	27
4.	留学のとびら	39
5.	異文化交流サークル ACE	49
6.	名古屋大学グローバル・リーダー育成プログラム MEIPLES	
	名古屋大学国際学生フォーラム IF@N	61
7.	NUELC (Nagoya University English Learning Center)	75

*名古屋大学留学生会 NUFSA は、今年度の掲載なし

名古屋大学国際交流グループ紹介

名古屋大学ではキャンパスの国際交流を活発にするために 学生が主体となって様々な交流活動を行っています。 そんな活動を一緒にサポートしてくれる仲間を募集しています。参加をお待ちしています！

●スモールワールド・コーヒーアワー (Small World Coffee Hour)

コーヒーやお茶を片手にリラックスした雰囲気の中で留学生と一般学生が出会い、文化や学生生活に関することなどを気軽に話し合える国際交流の場を毎月（学期中）に開催しています。楽しい文化交流の場を一緒に作ってくれる仲間を募集中。

留学生センター アドバイジング・カウンセリング部門

isa@ecis.nagoya-u.ac.jp <http://www.isa.provost.nagoya-u.ac.jp/>

●ヘルプデスク (Help Desk)

各学期の最初の 3 週間、留学生センター1 階のラウンジに設置するヘルプデスクを中心とした留学生のサポート活動を行なっています。新入留学生が日本の生活や名大での学生生活をスムーズに始められるよう、留学生が気軽に立ち寄ることのできる場を共に提供する学生ボランティアを募集しています。

留学生センター1 階 短期留学部門 (NUPACE オフィス)

volunteerdesk@ecis.nagoya-u.ac.jp

●ランゲージシャワー (Language Shower)

何年も学習している外国語なのに、自信を持って使えない、第 2、第 3 の外国語を使いたい、そんな要望に応えるためのプログラムです。間違いを恐れずに話し、聞き、楽しみましょう。プログラムを企画運営する学生ボランティア募集中。

留学生センター アドバイジング・カウンセリング部門

adv@ecis.nagoya-u.ac.jp

●留学のとびら (Gateway to Overseas Studies)

留学のとびらは、留学を経験した学生やこれから留学をしたい名大生による、将来の名大留学候補生をサポートする団体です。学生ならではの視点から学内の留学イベントの企画・実施を通じて留学の魅力を紹介します。また、活動を通じてプロジェクトマネジメント能力やファシリテーション能力もアップすることができます。ぜひ一緒に名大留学を盛り上げましょう！

留学生センター海外留学室

abroad@ecis.nagoya-u.ac.jp

● **異文化交流サークル ACE** (Action Group for Cross-Cultural Exchange)

ACE では、“交流・架け橋・ボランティア”の精神で活動を行っています。ACE の最も重要な活動は毎年 4 月と 10 月に名古屋大学に来る留学生の受け入れ活動をする事です。その他にも一年を通じて留学生と一般学生が交流するイベントを企画しています。いつでも誰でも大歓迎です。参加したいと思った時がスタートです。

<http://afsa.ecis.nagoya-u.ac.jp/~ace/>

● **NUFSA 名古屋大学留学生会** (Nagoya University Foreign Students Association)

名古屋大学の留学生や一般学生など多様なメンバーで構成されている留学生会で、名古屋大学で学ぶ留学生が楽しく留学生活を送れるようサポートしたり、国際交流イベントを開催しています。参加をお待ちしています！

nufsa@googlegroups.com <http://www.ecis.nagoya-u.ac.jp/en/kouenkai/>

● **名古屋大学グローバル・リーダー育成プログラム MEIPLES**

名古屋大学国際学生フォーラム IF@N

(The MEIDAI PROGRAM for GLOBAL LEADERS & The International Forum at Nagoya University)

MEIPLES は異文化コミュニケーション能力、協働する能力、創造力、ディスカッション能力、問題解決能力、ファシリテーション能力、多文化理解能力、柔軟性、実務能力、企画・運営能力、交渉力、ピア・サポート能力など様々な要素を身に付けるべく活動をしています。

IF@N (名古屋大学国際学生フォーラム) は、英語・日本語で自由に、活発に討議を行い、国際理解・相互理解を深めていくために組織された国際学生フォーラムです。MEIPLES で学習し身に付けた能力を活かし、ディスカッションのテーマ設定、広報、フォーラムの企画運営、報告書作成など全ての面で携わり、一から学生フォーラムを作っていきます。

留学生センター アドバイジング・カウンセリング部門

isa@ecis.nagoya-u.ac.jp

● **NUELC** (Nagoya University English Learning Center)

「英語によるコミュニケーション能力の向上」を目的に、英語を気兼ねなく話す場所を提供しています。英語へのやる気を引き出させるようなイベントを企画、運営したり、英語を使ったアクティビティを行ったりしています。2013 年度は名称を「名古屋大学 English College」に移行し、Lunch English やディスカッションイベントなどを実施する予定です。

留学生センター 海外留学室

abroad@ecis.nagoya-u.ac.jp

スモールワールド・コーヒーアワー
Small World Coffee Hour

Small World Coffee Hour

2012 年度 活動報告

総合文責：江尻明日香

1 団体紹介

文責：江尻明日香

Small World Coffee Hour はイベント「Small World Coffee Hour」(以下、コーヒーアワーと省略)を企画・運営する団体である。外国人留学生や日本人学生に新しいつながりを作る場を提供することを目的として、2005 年後期に発足した。以後、アンケートを実施してイベント内容に工夫を凝らし、活動記録のテンプレートを作成して組織運営を円滑化することで、イベントだけでなく組織としての規模も大きくなってきた。2012 年度は、新たなチャレンジを試みる、新しいスタッフを増やすことに重点を置いて活動してきた。

1.1 理念

外国人留学生や日本人学生をはじめとする、さまざまな文化的背景を持つ人たちに、学内での交流の場を提供することである。本年度は「新たな挑戦」という目標を掲げ、活動を行った。

1.2 特徴

- ・有志の学生が中心となって活動を行っている。
- ・誰でも参加可能なオープンなイベントを、各学期 3 回、月に 1 度のペースで企画・運営をしている。参加に際し、事前予約や登録は不必要である。
- ・イベントごとに、参加者同士が話すきっかけとなるような、日本や世界についてのテーマを設定している。
- ・参加者にリラックスした雰囲気の中でアクティビティやゲームを楽しんでもらえるよう、コーヒーとお菓子を提供している。

1.3 メンバー構成

石黒孝知	(工学研究科 2 年)	喜田豪	(工学研究科 2 年)
青木雅弥	(理学部 4 年)	生田真理	(教育学部 4 年)
伊藤しおり	(教育学部 4 年)	江尻明日香	(教育学部 4 年)
杉森州平	(経済学部 4 年)	黒川綜太	(工学部 3 年)
後藤菜々	(教育学部 3 年)	高橋美希	(教育学部 3 年)
櫻庭優	(農学部 2 年)	井上美里	(文学部 1 年)
加納佐知子	(経済学部 1 年)	Dana Fager	(経済学研究科研究生)
Frank Ross Galka	(NUPACE 夏帰国)		

2 活動紹介

文責：江尻明日香

2.1 準備について

【ミーティング】

毎月 3～4 回の頻度で行い、企画シートをもとにして、その月のコーヒーアワーのテーマや内容、役割分担、会場のレイアウトなどを決めている。各ミーティングでは、議事録を作成し、メーリングリストに流して情報を共有している。また議事録やポスター、資料、写真などの保管場所として、名古屋大学 SNS「MINT」のコミュニティファイルを活用している。

【広報活動】

半期計画のポスターと各回のポスターを、各学部および研究科・留学生センター・生協・食堂などに掲示した。また、留学生相談室から学内の留学生担当者に依頼し、イベント告知のメールを流してもらった。

2.2 コーヒーアワーについて

【当日の動き】

- 15:30～ 留学生相談室にてコーヒーを準備
- 16:00～ 留学生センターで企画シートに従い会場設営開始
- 16:15～ 受付開始
- 16:30～ コーヒーアワー開始（すぐにアクティビティまたはゲーム開始）
途中、適宜 Free Conversation Time を設定
- 18:00～ 終了・片付け
- 18:30～ 振り返りミーティング

【本年度の工夫点】

- ・他団体と合同でイベント企画をする
→名古屋大学茶道部松尾流の方々に協力を依頼し、イベントにて茶道のお手前を披露していただいた。
- ・本来は 4・5・6・10・11・12 月の計 6 回、イベントを開催しているが、今年度は参加者の方々に好評だったため、1 月に番外編としてのイベントを特別に開催した。

3 年間行事記録

【4月のコーヒーアワー】

文責：伊藤しおり・高橋美希

「うそつき自己紹介」

・日時・場所：4月27日（金） 16:30～18:00・留学生センター1階ラウンジ

・イベント概要

新学期最初の恒例行事となっている自己紹介ビンゴゲームを、今年度は「うそつき自己紹介」というあたらしい形式で実施した。参加者に一人一枚シートを配布し、始めに自己紹介を記入してもらった。自己紹介は五項目あり、一項目はオリジナルの自己紹介を考えてもらった。他の四つは「出身地」や「好きな食べ物」などの質問をあらかじめスタッフで考え、記載した。五つの項目のうち、一つは真実とは異なる回答を考えてもらい、ペアで交流する際にどれが嘘であったかを見抜いてもらうゲームだ。シートの下半分には、対話した人の名前を書いてもらい、嘘を見破ることができたか「○・×」で記入してもらう欄も設けた。相手の名前を自分で記入することで名前も覚えやすくなり、自己紹介をすることでよりコミュニケーションを深めることができた。自己紹介のため、景品はなしとして、自己紹介後はフリートークを楽しんでもらった。また、今後のコーヒーアワーの活動を発展させる為に、自己紹介シートの下には「スタッフ募集」、今後の説明会の日程も記載した。ポスターも作成し、より多くの方がコーヒーアワーに関わってもらえるように呼びかけた。

・実施した感想

4月と10月は毎回、留学生が多いということで「自己紹介ビンゴ」をしていました。しかし、長期間滞在している留学生もいることから、新しく「うそつき自己紹介」を試みようというメンバーのアイデアをもとに行なうことになりました。初めての取り組みで上手くいくか心配でしたが、予想以上に多くの人に来場して頂いて、とても盛り上がりました。参加者の方が誰と話したか、相手の名前を書く欄がプリントにあったので、それが交流のきっかけにもなり良かったのではと思います。（高橋）

4月ということもあり、多くの学生が参加してくれました。斬新な自己紹介ゲームであった為、何が嘘なのか考えたり、また相手の目を見ながら嘘を見破ろうと対話していたりする姿がとても楽しそうでした。やはり4月は、新年度で新しい仲間と顔を合わせるいい機会なので、お互いのことを少しでも知ることができるイベントができるといいと思います。また、コーヒーアワーに初めて参加され、興味をもってくださいました方もいたのでコーヒーアワーについても紹介し熟知してもらえると良いと思います。フリートークの時間もお菓子やドリンクを片手に、気軽にコミュニケーションとれていて良かったと思います。（伊藤し）

・気づいた点（改善点）

説明が上手く行きわたらなかったのも、スピーカーの位置を変更するなどの工夫をした方が良かったかもしれません。また、4月・10月は多くの来場者が予想されるので、プリ

ントを多めに用意したほうがよいと思われました。(高橋)

「うそつき自己紹介」という新しいイベントだったので、ルール説明をいかに分かりやすく、コンパクトに行うかが大切だと感じました。「うそを見破れたら○、見破れなかったら×」というチェックの仕方に誤解もあったので、あらかじめシートに記載しておくか、紙に書いて全体に共有するかなどして、スタッフ内でも時間を有効に活用し、工夫することが大切だと思いました。(伊藤し)



【5月のコーヒーアワー】

文責：江尻明日香

「ジェスチャーゲーム」

- ・日時・場所：5月31日（木） 16：30～18：00・留学生センター1階ラウンジ
- ・参加人数：約65人
- ・イベント概要

3つのジェスチャーが載っている紙を3種類用意し、参加者に受付で配布をする。自分とは異なる紙を持っている人を探し、お互いに自分の紙に載っているジェスチャーを行い、ジェスチャーがどんな意味であるのかを推測しあう。イベント終了間際には、全体で答え合わせを行う。参加者同士のコミュニケーションを図りながら、様々な文化に触れることを目的としている。

・実施した感想

最初、参加者の少なく集まりが少なく、始まりがいつもより遅くなってしまったが、時間が経過するにつれ、多くの参加者がコミュニケーションを取っている姿を見ることができた。答え合わせをする際に、一つ一つのジェスチャーを拡大コピーした紙を見せながら、「このジェスチャー分かる人？」と参加者に巻き込みながら行うことができ、非常に盛りあがった。

・気づいたこと（改善点）

始まりが遅くなったことで、お菓子をどのようなタイミングで出せばよいのか戸惑った。予定通りにイベントが進まなくても、すぐに対応できるようスタッフ全員が全体の流

れを把握しておく必要がある。紙に載せたジェスチャーを表わした写真が、参加者にとって分かりにくかったようなので、事前にスタッフ全員で確認する必要がある。また、途中から参加者がゲームや会話に入りにくい状況が生まれないように、スタッフが積極的に目を配り、声かけができればよい。

【6月のコーヒーアワー】

文責：加納佐知子

「Coffee Hour 緑日☆〜うちわ作り〜」

- ・日時・場所：6月30日（木）16:30~18:00・留学生センター1階ラウンジ
- ・参加人数：約70人
- ・イベント概要

日本の夏祭りの雰囲気を再現した。メインでうちわ作りを体験してもらい、その他にも折り紙やヨーヨー釣りのコーナーを設け、日本文化に触れながら交流できるような場を目指した。うちわ作りに関しては、あらかじめうちわ型の厚紙を作っておき、表面に張る用紙も、主に和柄をはじめとし、無地や“Coffee Hour”プリントが入ったものなどバラエティに富んだものを数多く取り揃えた。また各テーブルにスタッフがついており、随時作り方の説明にあたった。

- ・実施した感想

作品に参加者それぞれの個性がよく出ていて楽しい時間を過ごすことができた。また、制作中も「その柄いいね」「見て！見て！」といった会話の飛び交う、和気藹々とした雰囲気で行えた。ヨーヨーで部屋が水浸しになってしまうのではないかという懸念もあったがそれ程でもなく、うまくうちわ作りが早く終わってしまった人も飽きないような工夫ができたと思う。

- ・気づいた点(改善点など)

これから暑くなる季節に手持ちのコンパクトなMyうちわを作れるというコンセプト自体が好評だったのではないと思う。ただ、作っている最中になかなか会話の中に入っていけない参加者も見受けられたので、今後はそのあたりのカバーをいかにスタッフがうまくしていくかが制作企画の際は重要になってくるのではないかと感じた。



【10月のコーヒーアワー】

文責：石黒孝知・高橋美希

「自己紹介ビンゴ」

- ・日時・場所：10月26日（金）16:30～18:00・留学生センター1階ラウンジ
- ・参加人数：約50人
- ・イベント概要

新学期の最初に恒例となっている自己紹介ビンゴを実施した。参加者に「自己紹介ビンゴ」を配り、自由に交流しながらゲームをしてもらうというもの。ビンゴシートの5×5のマスには質問が書いてあり、参加者は最初に自分の答えを書き込む。その後、他の参加者に質問をして、自分の答えと同じ回答を得られればサインをもらってマスを埋め、ビンゴを作るというルールである。ビンゴシートは、表は日本語、裏は英語で印刷した。「文系？理系？」など初対面の人同士でも、質問をし合った後に話が盛り上がるような質問をメンバーで考え、用意した。ビンゴが完成した人に、先着順に景品をプレゼントした。

・実施した感想

いつもより人数が少なめではあったが、徐々に人が増え始めた。いつもと違うこじんまりとした雰囲気ではあったが、参加者の方それぞれが交流しており、とても和気あいあいとした良い空間・時間になった。（高橋）

準備の面についてであるが、これまで最後のミーティングからイベント当日までの日にちが空いていて進行が滞ることがあったが、前日に最終確認を行うことでイベント当日にスムーズな進行が可能になった。（石黒）

・気づいた点（改善点）

今期の留学生の時間割では、金曜日5限の時間に授業があり、コーヒーアワーに来ることが出来ない方が多いことが分かったので、その後、メンバーで相談し、コーヒーアワーでは曜日変更することにした。（高橋）

イベント途中から参加する方へのルールの伝達をしっかりと行う必要がある。今後は、受付担当に対して途中参加者には受付時にルールを伝えるという役割を追加するべきである。（石黒）

【11月のコーヒーアワー】

文責：江尻明日香

「利き茶」

- ・日時・場所：11月29日（木） 16:30～18:00・留学生センター1階ラウンジ
- ・参加人数：約80人
- ・イベント概要

ほうじ茶・緑茶・玄米茶・烏龍茶の計4種のお茶を用意し、参加者に飲み比べてもらった。お茶の他にも、和風のお菓子（なごやんやお煎餅など）を用意し、参加者同士で歓談を通してコミュニケーションをとる時間を設けた。イベント終了間際には、参加者にシ

ールを配布し、予め用意した模造紙に「どのお茶が一番好きか」を投票してもらい発表した。今回は、「利き茶」とは別に名古屋大学茶道部松尾流の方々にご協力いただき、生で茶道のお点前を披露し、実際にお抹茶を試飲していただくコーナーを設けた。

・実施した感想

今回、他団体ともにイベントを作り上げたのは初の試みである。初めてということでは不安な点も多かったが、茶道部の方々にコーヒアワーのミーティングに参加していただいたり、密に連絡を取りあうことができたので、イベント当日も大きなトラブルもなく、無事成功を収めることができた。また今回の企画において畳を使用した。畳の運搬は多少大変ではあるが、大学側にきちんと申請すれば、自由に使うことができるので、今後のイベントにおいても活用できる可能性がある。「利き茶」・「茶道部のお点前披露」とともに、参加者からの評判もよく、また自然と会話も弾んでおり、一人になっている参加者もいなかった。非常に盛り上がり、雰囲気の良いコーヒアワーであった。

・気づいたこと（改善点など）

今回、普段とは異なって和風の音楽を使用したり、会場の照明を工夫して会場の雰囲気づくりにも力をいれた。今後は、1階ラウンジにあるスクリーンを使ってスライドショーを行ったり（今回であれば紅葉の風景や茶道部の紹介など）、まだまだ事前に準備して雰囲気づくりを改善していくことができると感じた。



【12月のコーヒアワー】

文責：井上美里

「習字体験」

- ・日時・場所：12月20日（木）16：30～18：00・留学生センター1階ラウンジ
- ・参加人数：約70人
- ・イベント概要

参加者の皆さんに習字で作品を作成してもらい、気に入った1枚を、ひもを使った掲示板にクリップを使って展示してもらおう。最後に、その中から気に入った作品に付箋を使ってひとり1票投票し、上位3名に景品をプレゼントする。

・実施した感想

昨年に引き続き、習字体験は好評で楽しんでもらえた。11月同様、BGMも和風のものにし、前回のコーヒアワーの影響か日本茶の売れゆきが良かった。また、前回ご協力いただいた茶道部の方にも来ていただき、よい繋がりができた。

・気づいた点（改善点など）

最後の投票では、上位3名とも日本人の参加者であったので、留学生向けに用意した景品が留学生に渡らなかった。次回は部門別にするなど対策が必要かもしれない。習字体験と同時に、筆ペンでのポストカード作りも行ったが、こちらは人気がなかった。習字だけで十分な活動になった。



【1月のコーヒアワー】

文責：櫻庭優

「日本のお正月を体験しよう！」～番外編企画～

- ・日時・場所：1月17日（木）16:30～18:00・留学生センター1階ラウンジ
- ・参加人数：約50人
- ・イベント概要

参加者の皆さんに福笑いや、かるた、けんだま、駒まわしをしてもらい、日本のお正月の雰囲気を感じてもらおう。

【福笑い】

- ① 5人1グループ、6グループ(A～F)作る

(受付でA～Fの紙をランダムに配り、その机に行ってもらおう。)

- ② 1人につき顔のパーツを1つ、タオルで目隠しをして書く。

- ・司会が「右目を書いてください」というアナウンスで各グループごとで一斉に始める。
- ・パーツ：右目・左目・鼻・口を自由に書く。

【かるた・けんだま】

福笑い終了後、時間が余ることが予想されたのでこれらを用いて臨機応変に進めていった。

・実施した感想

楽しかった！雰囲気良かった。かるたが大好評で盛り上がった。参加者からトーナメント戦がやりたいとの提案も。こまは少し危険で、巻くのが難しい。けん玉は人気。福笑い
は改善の余地あり。グループによって進度に差があり、進行が難しかった。制限時間を作る、説明の紙を貼るなどの改善が必要。福笑いからかるたなどへの移行が難しかったがフレキシブルに進める必要があった。グループ分けによって参加者が散らばり、話す人も見つかるなどのコンタクトにもなった。おかしスペースの配置がよかった。人が集まる場所なので、イベントによって位置を変えていくほうがいいことがわかった。

4 コーヒーアワーで大切にしていること・来年度への抱負

●参加者への配慮と公平性・今年度で卒業ではありますが、来年度のコーヒーアワーの成功を願っています。(石黒)

●留学生に日本の文化を体験してもらうのはもちろんのこと、全員が楽しみまた参加しようと思えるように、ひとりである人や乗り気でない人に積極的に声をかけ、誰でもウェルカムな雰囲気づくりをする。今年度の反省を踏まえ、改善できるところは改善し、さらに良いイベントを開催するとともに、新しいことにもどんどんチャレンジしていく。(青木)

●毎月、留学生の方も日本人の方も含め、どんな方でも気軽に参加して楽しんでもらえることを大切にしています。今年度はあまり参加できず残念でしたが、多くの新しい企画を生み出し、CHをますます良いものにしてくれたメンバーの皆は本当に素敵な人ばかりです。今年でCHを卒業することになりますが、これからもCHが多くの学生を結ぶ、あたたかい場であることを願います。(伊藤し)

●今年度は初の試みとして、他団体との合同の企画を行った。今年度の試みでできた繋がりを今後も大切し、さらに新たな繋がりを作っていくことで今後のイベント内容の広がりにつなげていきたい。(江尻)

●Coffee Hourは11月に初めて普通のゲストとして参加しまして、とても運営がうまくてよくできているなあなんて思ったのですが、そこで田所先生に誘われてあっという間にスタッフになってしまいました。スタッフとして活動したのは12月分だけで(1月は参加できず)、まだまだ流れなどわかりませんでした。でもみなさん色々教えてくれて、いきなり司会をやってしまいました。なんとかうまくやれたかなと思います。まだ一回しか経験しておりませんが、大切にしていることは、来てくれたみなさんが笑っていただけるような会にすることだと思います。Coffee Hourの用意したイベントをもちろん楽しんでいただけたら嬉しいですが、それをきっかけに交友関係が広がってくれたらもっと嬉しいです。来年度は一気にみなさん卒業して人数が減ってしまうので、それをカバーできるようにより一層精進していきたいです。新入生の人が入ってくれたら、経験は少ないですが一応先輩なので、役割を教えられるようにきっちりやっていきたいです。そして一人でも多くの方

に参加していただけるよう頑張っていきます。(黒川)

●参加者の方が交流しやすいような「きっかけ」を作ることができるよう、毎月の企画を考えることを大切にしています。来年はコーヒアワーに関わることのできる最後の年。とても心強い先輩方が今年度でたくさん卒業してしまいましたが、新入生を迎え入れて、コーヒアワーをさらに盛り上げていきたいと思います。(高橋)

●私は、月に一度のCHのイベントに参加したことがきっかけで、この団体に入りました。入ってからは、イベント企画のための毎週のランチミーティングを通して、他学部の先輩や後輩との親睦を深めることができました。ほんとにみんなが仲良しで、家族みたいに温かい皆さんとの活動は、参加すればするほど次回への意欲が湧いてきます。このメンバーで作り上げるイベントは、どれもほんとに充実したものだと感じます。来年度も、このような良い雰囲気の中で、皆が楽しめる最高のイベントを企画していけるようにがんばっていききたいと思います。(櫻庭)

●スタッフとして活動するのは想像以上に楽しくやりがいのあるものでした。来年度からは多くの先輩方が卒業してしまうので寂しいですが、今後も楽しく良き出会いの場となるコーヒアワーを、想像力をふくらませながら楽しんで作っていききたいと思います。(井上)

●日本にいながら世界中の様々な方とこんなに楽しくふれあえる機会なんてそうそうないと思います。その意味でも“Small World Coffee Hour”は言葉どおり本当に素敵な団体だと感じています。だからこそもっと多くの方にこの貴重な機会に参加してもらいたいのので、来年度はこの活動をよりいっそう広めていけるよう引き継いでいきたいです。また、この場をお借りして、今までいつもやさしく丁寧にご指導し下さり、且つ積極的に準備・運営を進めて下さった先生方・先輩方、本当に尊敬しています、ありがとうございました。(加納)

ヘルプデスク

Help Desk

ヘルプデスク 2012 年度 活動報告

総合文責 石坂直也 杉森州平

【1】団体紹介

<概要>

ヘルプデスクとは、名古屋大学の留学生が学校生活を快適に過ごすための、有志の学生による留学生支援活動の一つである。主に新規受け入れ留学生を対象としており、来日後1ヶ月間留学生センターにデスクを設置し、留学生の質問に対応する、相談に乗る等の活動を行っている。また、留学生来日当日の学生寮への受け入れや手続きなどの手伝いも活動に含まれている(出張ヘルプデスクの項目参照)。さらに、デスク設置期間以外にもサポーター学生の提案や留学生の要望からイベントを開催する事もあり、日本人学生と留学生の交流を促進している。

<特徴>

メンバーは有志の学生で構成されている。海外に興味がある学生、留学経験者、留学生等が参加しているオープンな集まりで、学部・大学院、専攻、語学力等の条件もない。実際に活動している学生の学部や年齢も様々であり、特別な入会や退会などの手続きなども行っていない。また、留学生センターの教職員がヘルプデスクに参加するサポーター学生に対して定期的かつ継続的に助言や提案を行っており、教育的効果があるよう配慮されている。

<活動目的>

第一に、実際に名古屋大学で生活している学生が持っている情報源を活かし、来日したばかりの留学生がスムーズに学生生活を始められるよう支援することである。第二に、留学生と名古屋大学生の交流のきっかけを作ることである。普段留学生と時間を共にする機会のない日本人学生にとっても、日本人学生との交流が少ない留学生にとっても留学生センターに常駐しているヘルプデスクの存在は国際交流の窓口となる。

<2012 年度 年間活動>

3 月	前期ヘルプデスク準備、ヘルプデスク説明会
4 月	出張ヘルプデスク、通常ヘルプデスク、お花見会
6 月	ビアガーデン、国際交流団体合同フリーマーケット
7 月	花火
9 月	後期ヘルプデスク準備、出張ヘルプデスク、通常ヘルプデスク、ヘルプデスク説明会
10 月	通常ヘルプデスク

【2】2012 年度 ヘルプデスク活動

◎出張ヘルプデスク

<概要>

新規留学生が最も支援を必要としているのは到着した日から学生オリエンテーションまでの期間であると指摘する声から、交換留学生来日当日から質問や相談に対応できる窓口を国際嚶鳴館の 1F ロビーに設置し、サポーター学生が留学生の支援を行った。

○新規留学生受け入れ

(前期)

日時:2012 年 4 月 5 日、6 日 9:00 - 17:00

場所:国際嚶鳴館 1F ロビー

スタッフ数:20 人程度

受入人数: 20 人

(後期)

日時:2012 年 9 月 21 日、24 日 9:00 - 17:00

場所:国際嚶鳴館 1F ロビー

スタッフ数:20 人程度

受入人数:54 人

<活動指針>

(前期) 4 月の受け入れ時には、2011 年後期から在籍している交換留学生が 50 人程いたため、以前より在籍していた留学生と新しく来日した留学生との交流の場を設けることで留学生間の親交を促進し、留学生同士で情報交換ができるよう工夫を行った。



(後期) 9 月の受け入れ時には、2012 年後期から在籍している交換留学生が 10 人程しか残っていなかったため、以前より在籍していた留学生や国際嚶鳴館日本人学生の協力の下、できるだけ全体に目が行き届くよう受け入れを行った。

<活動内容>

新規留学生の入寮日当日、入寮日からオリエンテーションまでのスケジュールを説明し、国際嚶鳴館日本人学生による入寮手続きの補助を行った後、館内の案内を以前から在籍していた留学生寮生に依頼した。また、新規留学生は渡日直後には館内のインターネットに接続できないため、サポーター学生の Wi-Fi ルーターを貸出し、いつでも家族と連絡が取れるよう配慮した。



（前期） 2011 年後期から在籍している留学生に受け入れ当日手伝ってもらうために、Facebook のイベントページによる告知や国際嚶鳴館や東山レジデンスでの受け入れに関するポスターの掲示を事前に行った。また、新規留学生がサポーター学生や留学生に気軽に質問、相談ができるように 1F 多目的ホールに café スペースを設置し、質問しやすい環境を提供すると同時に、留学生同士が交流できるようゲームなどを行った。

（後期） 国際嚶鳴館 1F ロビーでお菓子や飲み物を用意し、新しい留学生が日本での生活に関して質問したり、留学生同士で交流したりする場を設けた。尚、9 月の受け入れではサポーター学生数に対する新規留学生数が多かったため、交流を目的としたイベントの企画は行わなかった。

○買い物ツアー

（前期）

日時：2012 年 4 月 6 日 11:00 - 14:00 -

場所：イオン八事店（八事駅）

スタッフ数：10 人程度

参加人数：30 人

（後期）

日時：2012 年 9 月 21 日、24 日 14:00 -

場所：イオン八事店（八事駅）

スタッフ数：10 人程度

参加人数：60 人

＜活動指針＞

日本での買い物が初めてである、日本語のみの記載のためにどの商品を購入すべきかわからないというような不安に応じ、留学生の買い物をサポートすることを目的とした。



＜活動内容＞

当日、国際嚶鳴館と東山レジデンスの 1F ロビーに買い物ツアーへの参加を希望する留学生に集合してもらい、それぞれ地下鉄にてサポーター学生がイオン八事店に引率した。地下鉄での移動は、名古屋の地下鉄に慣れることも目的として含んでいた。到着後、まず初めに、フードコートで昼食をとり、サポーター学生や留学生同士で交流する時間を設けた。前期では、サポーター学生にイオン八事店のフロアごとのガイドを配布し、いつでも留学生からの質問に答えられるよう配慮した。以前より在籍していた留学生も買い物ツアーを手伝ってくれ、留学生ならではの視点からアドバイスができていた。後期では、前期と比べ参加する留学生が多く、全体に目が行き届かないことが考えられたため、あらかじめ留学生にフロアガイドとよくある質問集を配布した。来期の買い物ツアーでは留学生全員を把握できるようグループを作るか、あるいはサポーター学生は基本的にフードコートに待機し、質問がある場合は留学生に質問しに来てもらうようにするなどにした方が良いとの意見があった。

○学食ツアー

(前期)

日時：2012年4月5日 18:00-20:00

場所：フォレスト（食堂）

スタッフ数：10人程度

参加人数：20人

(後期)

日時：2012年9月24日 18:00-20:00

場所：フォレスト（食堂）

スタッフ数：10人程度

参加人数：60人

<活動指針>

渡日直後ではどこで何を食べればいいのかわからないとの留学生の声から、名古屋大学内の食堂の案内と留学生間の交流を目的として行った。

<活動内容>

当日国際嚶鳴館と東山レジデンスの1Fロビーに学食ツアーの参加を希望する留学生に集合してもらい、それぞれサポーター学生がフォレストに引率した。留学生の中には、ベジタリアンやイスラム教徒で豚肉が食べられない留学生がいるため、それぞれの食事習慣に考慮しながら、学食ツアーを行った。



○ウェルカムパーティー

(前期)

日時：2012年4月6日 18:00-20:00

場所：国際嚶鳴館 1F 多目的ホール

スタッフ数：10人程度

参加人数：111人

(後期)

日時：2012年9月21日 18:00-20:00

場所：国際嚶鳴館 1F 多目的ホール

スタッフ数：10人程度

参加人数：70人程度



<活動指針>

昨年から国際嚶鳴館で行っているケータリング式の夕食ツアーを今年度からウェルカムパーティーと名前を変えて行った。到着直後で疲れている留学生がわざわざレストラン等に歩いていく必要もなく、また立食パーティー形式にすることで、留学生同士の交流を行える場所の提供を目的に行った。

<活動内容>

(前期) 昨年後期と同様宅配ピザを注文しただけでなく、ベジタリアンやイスラム教徒の留学生でも食べることのできるおにぎり等も提供した。音楽を流し、話しながらでもつまめるようなお菓子を提供することによって、交流しやすい場になるよう工夫した。今回のウェルカムパーティーは留学生や日本人からも評判が良かったが、ピザだけではなく、もっと料理の種類を増やした方が良いとの声もあった。

(後期) 後期のウェルカムパーティーでは、来日したことが感じられるように寿司、ベジタリアンやイスラム教の留学生でも食べられるようにサンドウィッチ、その他オードブルを用意し、前期の反省を活かして提供する料理の種類を増やした。提供された料理の評判は良かったが、ウェルカムパーティーのためにドレスアップしてきている留学生もいたため、初めに公式な挨拶を行い、もっとフォーマルなパーティーにしたらどうかという意見が出された。

◎通常ヘルプデスク

(前期)

日時：2012年4月9日 - 4月27日

10:00 - 17:00

場所：名古屋大学留学生センター1F ロビー

(後期)

日時：2012年10月1日 - 10月26日

10:00 - 17:00

場所：名古屋大学留学生センター1F ロビー

<活動方針>

新学期開始後の3週間、留学生センターのロビーに質問・相談コーナーを設置し、新入留学生が気軽に質問や相談に立ち寄れる場を提供することを目的とした。



<活動内容>

サポーター学生は各自の都合の良い時間に窓口のテーブルにつき学生の質問や相談に応え、特にシフトなどは決めていない。学期始めのオリエンテーション期間は、生活情報から履修方法まで多様な質問を抱えて留学生が立ち寄った。他の良く聞かれる質問としては、授業が行われる建物の位置や銀行口座の開設の仕方などが挙げられる。また、4月の通常

ヘルプデスクの前にサポーター学生が地獄の細道に行き、部活やサークルの勧誘チラシを集め、部活サークルに興味のある留学生にいつでも紹介できるようファイリングした。2週目あるいは3週目に入ると留学生は質問のためにヘルプデスクを訪れるというよりも、むしろ顔見知りになったサポーター学生へ日本語の宿題の手伝いや会話を求めて立ち寄ることが多くなった。さらに、サポーター学生の中では一緒に食事に出かけたり、スポーツを楽しんだりとより親密な交流へと発展することが多かった。

◎2012 年度実施イベント

○お花見会

日時：4 月 12 日（木）12 時～

場所：鶴舞公園

参加人数：およそ 90 人



< 目的 >

日本独特の春の楽しみ方の一つとしてお花見を楽しんでもらうと同時に、4 月に日本に来たばかりの新規留学生に日本人学生や他の留学生と親交を深めることを目的とした。

< 内容 >

Facebook のイベントページを作成し、出張ヘルプデスク時に告知を行うことで宣伝し、参加者を募った。用意したものはブルーシート(六畳サイズ)×7のみであり、飲食物は各個人で持ち寄るか、もしくは鶴舞公園内の屋台や付近のジャスコで購入するなどした。当日 6 時よりヘルプデスクメンバー数名でシートを広げ場所取りを行い、参加者は 12 時に鶴舞駅 3 番出口に集合し、会場までメンバーが案内した。最終的に 19 時ごろに参加者全員で協力して片づけを行い、撤収した。

○ビアガーデン

日時：6 月 7 日（木）19 時～

場所：名鉄百貨店屋上

参加人数：およそ 20 人(スタッフを含む)

< 目的 >

留学生からの「ビアガーデンに行ってみたい」との要望に応じて企画したものであり、主に留学生の慣れない日本での暮らしにたまるストレスの発散を目的としたものである

< 内容 >

Facebook のイベントページを使用して参加者を募った。参加費は飲食代の 3500 円のみであり、数週間前に名鉄百貨店屋上で開かれているビアガーデンの電話予約をした。当日は 18 時に留学生センターに集合した後、全員で現地に向かった。



○手持ち花火

日時：7月16日（月）19時30分～

場所：矢田川沿い広場

参加人数：32人(スタッフを含む)

＜目的＞

国によっては、屋外で個人が花火をすることが難しいこともあり、日本ならではの夏の風物詩である花火を紹介し、実際に楽しんでもらうことを目的とした。

＜内容＞

Facebook のイベントページや口コミで参加者を集めた。開催日数日前に、花火、着火マン、金属製のバケツなどを購入。なお、花火にかかった費用はすべて、後述のフリーマーケットで得た利益から負担した。当日、サポーター学生は一度 18 時 30 分頃に現地に集合し、会場までの経路を確認した。参加者は 19 時 30 分に地下鉄砂田橋駅 3 番出口に集合し、会場までサポーター学生が案内した。



◎国際交流団体合同フリーマーケット

日時：2012年6月9日、10日 9:00 - 17:00

場所：名古屋大学文学部前

スタッフ数：15人程度

＜活動指針＞

名大祭においてコーヒアワー、ランゲージシャワー、留学のとびら、NUELC、ヘルプデスクの計 5 つの国際交流団体が合同でフリーマーケットを行った。不要となった衣服、小物、本等をリユースすると同時に、収益を各団体の活動資金とすることを目的に行った。

＜活動内容＞

各団体の代表者で事前にミーティングを重ね、物品の回収から値札張り、販売を各団体のメンバーと協力して行った。このフリーマーケットを通して、普段あまり関わることのない他団体との交流もでき、非常に有意義に活動となった。売上金額は 29,731 円となり、5 団体で分配し、各団体の活動資金に充てられた。



【3】 ヘルプデスクミーティング記録

回	日時	場所	内容
1	2012.3.22(木) 13:00-15:00	留学生センター 202 教室	・出張ヘルプデスクについて ・今年度ヘルプデスクの役割決め
2	2012.3.28(水) 13:00-15:00	留学生センター 202 教室	・出張ヘルプデスクについて ・4月全体のスケジュール確認
3	2012.4.19(木) 12:00-13:00	留学生センター 202 教室	・通常ヘルプデスクでの質問共有
4	2012.4.27(金) 12:00-13:00	留学生センター 202 教室	・前期のヘルプデスクの反省
5	2012.4.27(金) 12:00-13:00	留学生センター 201 教室	・手持ち花火大会、ビアガーデン企画
6	2012.5.24(木) 12:00-13:00	留学生センター 201 教室	・フリーマーケットの物品持ち寄り ・手持ち花火大会、ビアガーデン企画
7	2012.6.14(木) 12:00-13:00	留学生センター 202 教室	・フリーマーケットの売上金額報告 ・手持ち花火大会企画
8	2012.8.7(火) 13:00-15:00	留学生センター 202 教室	・来期受け入れについて
9	2012.9.5(水) 13:00-15:00	留学生センター 202 教室	・来期受け入れについて
10	2012.9.19(水) 13:00-15:00	留学生センター 201 教室	・来期受け入れについて
11	2012.10.1(火) 12:00-13:00	留学生センター 301 教室	・出張ヘルプデスクの反省 ・通常ヘルプデスクについて
12	2012.10.10(水) 12:00-13:00	留学生センター 303 教室	・通常ヘルプデスクでの質問共有
13	2012.10.18(木) 12:00-13:00	留学生センター 304 教室	・通常ヘルプデスクでの質問共有
14	2012.12.7(水) 12:00-13:00	留学生センター 304 教室	・後期のヘルプデスクの反省 ・引き継ぎ資料作成
15	2012.12.21(金) 12:00-13:00	留学生センター 304 教室	・引き継ぎ資料の共有の仕方について

【4】サポーター学生からの声

・ヘルプデスクでたくさん留学生と日本人学生と出会えてよかったと思います。同じ留学生として、悩みを抱えている後輩を助けられるのが楽しいです。忙しい大学院生の学校生活でヘルプデスクの活動を参加するのがいい気分転換になりました。

(工学研究科 1 年 吳 健民)

・ヘルプデスクの活動を通じて、留学生と仲良くなる機会を得られてよかった。彼らと話すことで、日本は外からどう見えているのか、ということについても考えるようになった。

(文学部 4 年 酒井 智成)

・私は、もともとコーヒアワーという活動をしていて、その活動の中で誘っていただいたのがヘルプデスクの活動でした。デスクに入ってから、それまで以上に留学生の友達が増えて、ECIS にいく度に誰かと話すことができ、とても楽しいです。この活動を通して学べることは本当に多いと思います。これからも積極的に活動に参加していきたいです。

(農学部 2 年 桜庭 優)

・留学生と話してみて、周りから見た日本のいいところや変わっているところなど沢山気付かされました。留学生だけでなく、参加している日本人も意識が高い人ばかりでいつも刺激を受けています。

(工学部 4 年 芹澤 裕子)

・昨年は日本とその隣国で、様々な問題が起こった年だった。反日デモや領土問題...政治的にも難しい話題も、お互いに嫌悪感などを抱くことなく、人間性や文化観を尊重しながら様々な国の人と気楽に語り、友情を育む機会を与えてくれる場が、ヘルプデスクだった。そこは人種とか宗教とか文化に関係なく、人間同士が交流することのできる、最高の場だと感じた。

(工学部 3 年 長江 祐樹)

・様々な価値観や背景を持つ人達と出会えたと同時に、留学生と、外国の人としてではなく、同じ学生なのだという立場で話せるようになりました。また、ただ楽しむのではなく、自分の責任感や積極性も伸ばすことができたと思います。

(経済学 4 年 杉森 州平)

・活動内容は新規留学生の来日 1 ヶ月間のサポート活動という非常にシンプルなものですが、その中から得られる経験や知識、交友関係は僕の期待以上に大きく、僕の今までの大学生活の中で非常に大きな変化をもたらしてくれた団体でした。

(理学部 4 年 石坂 直也)

・質問された内容を全部わかりやすく、答えたかったが、情報不足や英語が伝わらず、うまくできたか心配だった。しかし、ヘルプデスク期間が終わってからも、留学生の人から頼りにされたり、ありがとうと言われてやりがいを感じたりし良かったと思った。

(農学部 2 年 仲谷 彩)

【4】ヘルプデスクコーディネーターからのメッセージ

北山 夕華（留学生センター 短期留学部門 特任講師）

私が名古屋大学に来てもうすぐ4年になります。その間、通常のヘルプデスク活動に加え、学食ツアーから発展した囀鳴館でのウェルカムパーティー、買い物ツアーなど、毎学期工夫を積み重ね、活動が充実してきたと感じています。特に受け入れ当日は予想外のトラブルも頻発し色々大変ですが、留学生が名大に着いた初日にヘルプデスクのメンバーと出会うのは、何より素敵な留学生活の一步となっていると思います。

ヘルプデスクは、ヘルプデスク以外の国際交流活動や留学ともつながり、いまや名大の国際交流の発信地になっています。私自身、ヘルプデスクのパワーと創造力、ボランティア精神から多くを学ばせてもらいました。これからも、ヘルプデスクのさらなる進化と皆の活躍を期待しています。

亀井 千里（留学生センター 短期留学部門 交換留学プログラム専任職員）

皆さまとの交流を通し、とても楽しく有意義に過ごすことができました。いつも困った時には皆さまがいて、色々頼りにさせて頂きました。2年半年間でしたが本当にお世話になりました。皆さまに相談しながら、様々なことを企画・運営し、私自身も多くのことを学びました。どうもありがとうございます。

未だに名大を去ることが信じられなく、どっぷりと名大ライフに浸かっていたのだと実感しています。私は2013年3月から北海道大学に赴任しますが、北海道にお越しになる際は、ぜひご連絡して下さい。今後もお付き合いしていきたいですし、皆さまの将来がとても楽しみです。何年後か先に、再会できることを心より楽しみにしております！

澤田 美奈子（留学生センター 短期留学部門 事務補佐員）

今季も、多岐にわたりお手伝いいただき、ありがとうございました。また、お疲れ様でした。皆さんの活動を見ていると、ボランティアの枠を超えて、留学生の良き友人として、親身に貢献されているという印象を持ちます。私自身も、携帯電話の契約方法を教えていただいたり、教室を案内していただいたり、と大いに助けていただきました。これからも沢山の後進を育てて、盛り上げていってください。これまでの良き伝統はもちろん大切に、時には新しいことへのチャレンジや、改革も必要かもしれませんね。私も微力ながら皆さんの活動の一助となれば嬉しいです。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

ランゲージシャワー

Language Shower

Language Shower ランゲージシャワー

【学生スタッフ構成】

ファシリテーター

添田幸宏（工学研究科博士前期課程2年）

英語・スペイン語

牧 伸治（経済学部4年）

中国語

（他 英語 2名、 計4名）

言語サポーター

周 イ（文学部4年）

中国語

王 玉傑（情報文化学部）

中国語

（他 中国語 1名、 スペイン語・英語 1名 計4名）

【ランゲージシャワーについて】

プログラムとしての背景：

学内では多様な文化・言語に触れる機会がある。たとえば、様々な言語圏から来ている留学生との交流、国際交流プログラムへの参加、外国語で開講されている授業の履修など。しかし、外国語でのコミュニケーションに「自信がない」、「自分にはレベルが高すぎる」と感じ、そういう場に入りたいと思っても踏み込めないでいる人がいる。また、第二外国語として勉強してきた人や、留学を経験した人が、習得した言語をもっと使いたいと、その機会を探している場合もある。そのため、誰もが気軽に参加でき、“間違っても良いから、とにかく外国語で聞き、話し、ディスカッションする”場を提供できないかと、2007年度に留学生センターワークショップの“世界の言語・文化を学ぶ”において、1回のセッションが開催された。2008年度から、引き続き同ワークショップの一環として提供されているが、プログラム名を「ランゲージシャワー」とし、学生が主体でセッション企画、運営及び実施を行うものとなった。

特徴：

参加者を、使いたい同じ言語で小人数（4～5名）のグループに分け、出来るだけその言語だけを使ってゲームに挑戦したり、身近で話しやすいテーマで会話を楽しんだりする。各グループには、会話を盛り上げるなど、コミュニケーションを助ける役割の学生ファシリテーターが1名以上加わる。

学生ファシリテーターは、プログラムの企画、運営、実施を行なうが、各言語レベルは問わず、参加者と一緒に言語を練習しながらコミュニケーションを楽しむことができる。また、グループでの役割だけでなく、セッション全体の司会・進行にも挑戦できる。

一般参加者には、使いたい言語の基礎知識を有していることが条件となっている。セッションは、参加者の言語レベルにもよるが、主に「中級に達しないレベルの人が挑戦できる」内容のものを用意し、中級レベルでの学習を終えている参加者には、他の参加者のコミュニケーションを助ける役割を担ってもらうことを期待している。

また、可能である限り、その言語を母語とする、あるいは得意とする学生をプログラムの「言語サポーター」として講師依頼し、分からない／間違っ使用している単語や表現を直してもらう。

授業ではないので、リラックスして、間違っても良いから、発語を繰り返すことで自信をつけ、同じ言語でも、癖、使う言葉に違いがあることに気づき、それを楽しんでもらう。

【2012 年度の活動について】

前期・後期に分け、各期2回以上のセッションを実施することを目標に、学生ファシリテーター、言語サポーターおよびプログラムコーディネーターが、打合せやメール上での意見交換を複数おこなった。

セッションのは、過去に実施したものの内容を改善したり、新たにテーマや実践方法を考え、試行錯誤しながら実施された（実施概要は、【2012 年度公開セッション記録一覧】を参照）。

セッション実施後は、感想や反省点を出し合い、次回・時期への参考として共有した。

（前期）

英語を練習するグループ、中国語を練習するグループを設けた。英語グループにおいては、活動可能な学生ファシリテーターが少数だったので、応募の際、参加者の人数を制限したが、参加者も数名だったので、グループを分けずにゲームをしたり、ペ

アを組んで発語の機会をより多く設けるなどした。

中国語グループにおいても、参加者が数名だったので、中国語を母語とする言語サポーターと1対1で会話できる機会もあった。また、言語サポーターがファシリテーターを兼任したこともあり、学内のボランティア・スタッフの協力を得て、ファシリテーションについても少し学ぶ機会を設けた。

7月には、NUELC(Nagoya University English Learning Center)主導による合同イベントに、両言語グループともファシリテーターが参加した。



(後期)

英語、中国語以外の言語グループを展開することを視野に入れ、英語グループを「英語で楽しむ」グループとし、他の言語に触れたり、ゲームの内容を理解して楽しむのに、「英語」を手段として用いるようにした。初回はスペイン語／フランス語を学ぶ企画（指導言語は英語）を取り入れた。スペイン語に関しては、希望があればスペイン語だけで会話するグループを作る準備はあったが、参加者のほとんどがスペイン語初習者であったため、グループ形成には至らなかった。

中国語を練習するグループでは、中国語圏への留学経験者がファシリテーターとして、あるいは一般参加者として複数参加したことにより、多彩な内容で、時には参加者の言語レベル(中級以上)に合った内容でセッションを実施をした。



学生スタッフの声

今回はファシリテーターとしてスペイン語のランゲージシャワーに参加しました。ネイティブの留学生がサポートしてくれたこともあり、スペイン語を勉強するのではなく、スペイン語を使ってみるということが実現できたと思います。具体的にはスペイン語でゲームをしたり、歌を歌ったりして楽しみながらスペイン語に触れることができたと思います。しかし一方で、スペイン語に関する知識がまったくない学生でも楽しめるようにしなければならず、そこが今後の課題だと思います。

英語・スペイン語ファシリテーター
添田幸宏(工学研究科)

私は「留学のとびら」という学生運営の留学支援団体で、母国語を生かして「チャイ語教室」のイベントを主催していましたが、それと同じ性質の「ランゲージシャワー」も一緒にやりませんかと声をかけられ、言語サポーターとして参加しました。「チャイ語教室」だとレクチャーの形式に近く、学生がしゃべるよりも先生から教えられたことを学ぶイメージですが、「ランゲージシャワー」の場合は、学生が自ら中国語を使って会話することを重視し、一人一人の参加度が高いです。それに、少人数なので、1人の学生に1人のネイティブスピーカーのサポーターが就いている場合もあります。それを通じて、正しい発音をこまめにチェックしてもらい、確実に中国語を話せる良い機会になると思います。実際に、参加した学生からも「久しぶりにたくさん中国語をしゃべってよかった」、「とてもいい練習ができました」などのようなコメントが寄せられています。彼達が積極的に中国語をしゃべろうとする姿を見て、私も自分が日本語を学ぶ時のことを思い出して、これからもっと上達させるために努力しなげと刺激ももらいました。

中国語言語サポーター
周イ（文学部 中国人留学生）



***全体を通して**

交換留学参加前にもL S中国語の活動に参加していたが、昔と比べて参加者の人数も増え、活動のレベルも上がり、留学から帰国後に中国語を使う良い機会となった。また、参加者のほとんどが中国へ行った経験があるので、中国に関する話で何度も盛り上がり、毎回の活動に参加することが楽しみとなった。毎回の活動内容は事前に参加者で話しあって決めていた。自分の役割は、それを形にし、実際に行うことだった。大変なこともあったが、活動の楽しさがそれを忘れさせてくれた。

***面白かったこと**

毎回あるテーマ（中国の料理で驚いたことなど）を決め、それについて自由に話してもらうことから始めた。参加者の多くが中国に行った経験があっても、自分が行ったことのない街での経験や何に驚いたかといった話を聞くのは、新鮮で面白く、次に行く機会があれば自分の目で確かめたいと思うこともあった。また、毎回中国語の歌を1曲準備して、皆で歌詞の意味を考え、歌う練習もした。各自好きな歌を用意し、その担当者が進行役を担い、参加者全員でL S中国語を作っていると実感できたことがとてもよかった。

***苦労したこと**

活動の進行役として、基本的に中国語のみで毎回行うゲームの説明などをして活動を回そうとしたところ。参加者に中国語を聞く機会をたくさん提供しようと考えて実施したが、すべての説明を中国語で行うのは意外とハードで、事前に説明のための文章を考えていてもとっさに出てこないことやこちらの意図することが伝えきれなかったことがあった。そんな時はネイティブや他の参加者がサポートしてくれ、自分としても適切な言い方を学ぶことができた。苦労はしたが、自分の中国語を鍛える良い機会となったと感じている。

***抱負**

今期のL S中国語の活動は、中国留学経験者が帰国後に中国語を使える場としての役割が大きかったと感じる。そこで、来期は中国語を勉強しなおそうとする人や中国での交換留学に参加する人なども対象に広げ、自分が留学前に経験した「中国語を話すことに慣れる場」作りを目標としたい。参加者が聞きとりやすいスピードで話すこと、スピードで誤魔化さずに正しく発音すること、これらを自分に課すことで自分の中国語力を高めることにつながるとあって、来期の活動にも取り組みたい。

中国語・ファシリテーター
牧 伸治（経済学部）

2012年のラングージシャワーの中国語グループに参加させていただいて、日本人と中国人一緒に中国語を勉強し、日本人に中国文化や言葉を教えることができたと同時に、交流もできました。
とても面白かったと思います。来年も参加したいです。

中国語言語サポーター
王玉傑（情報文化学部 中国人留学生）

- ・この活動で面白かったこと
LSに参加する方々の多くは、院生や留学生であるため、学部生とは異なったものの見方や体験に触れることができた
留学生の考え方、異なる文化に触れるなど視野が広がった
- ・苦労したこと
英語グループへの参加者は日本人学生がほとんどであったので、留学生との交流があまりできなかった
企画の内容自体が一巡し、マンネリ化が心配された（運営側のモチベーションに苦労した）
- ・抱負など
英語を定期的に使用する良い機会なので、ただ話すだけではなく会話をリードできるようにしたかった
- ・その他
留学生と交流のできる貴重な機会なので、何らかの形で来年度も継続していきたい

英語・ファシリテーター（学部生3年生）

【2012 年度 公開セッション記録一覧】

日時	セッションテーマ	練習言語・参加人数 (2～3名の学生スタッフを含む)
6月12日 13:00-14:30	自己紹介(パートナーを変えて何度も行う)	中国語8名
16:30-18:00	カードを使ったゲーム、“Who am I?”, “What is it?”	英語6名
6月19日 13:00-14:30	自己紹介の続き(途中、台風のため中止)	中国語7名
6月26日 13:00-14:30	誰是誰ゲーム(ゲーム形式で、質問することと、答えることを練習)	中国語7名
16:30-18:00	様々な分野の英文記事を音読してみよう、聞いてみよう、書き取ってみよう	英語5名
7月13日 16:30-18:00	NUELC との合同イベント:「夏休みにしたいこと」を寸劇に	英語12名 中国語4名
11月7日 13:00-14:30	自己紹介・「世界で一つだけの花」を歌う	中国語10名
11月13日 14:45-16:15	スペイン語・フランス語で自己紹介、ゲームに挑戦(指導言語:英語)	英語12名(スペイン語7・フランス語5)
11月14日 13:00-14:30	アイテムを使ってのお話作り、「世界に一つだけの花」の2番を歌う	中国語8名
11月19日 13:00-14:30	中国の歌番組を見てリスニングの勉強	中国語3名
11月20日 14:45-16:15	スペイン語のゲーム、歌に挑戦/Mission possible in English!(風が吹けば桶屋が儲かるゲーム、折り紙を折る)	英語10名(スペイン語6・英語4)
11月27日 14:45-16:15	スペイン語の単語(grande/pequeno, caminando/ocho)でエクササイズ/英語で話す“What are your hobbies or interests?”	英語12名
12月5日 13:00-14:30	お話:びっくり中国食事ネタ/ゲーム:風が吹けば桶屋がもうかる、High 歌	中国語6名
12月12日 13:00-14:30	2012年の出来事、冬休みに行きたい場所、歌「再見」	中国語5名
12月19日 13:00-14:30	2013年の抱負、単語当てゲーム、歌「我的歌声里」	中国語6名

* 7月13日: Nagoya University English Learning Center (NUELC)と合同して、ランゲージシャワーのボランティアスタッフもイベントに参加。

【参考】

セッション開催案内ポスター(2012 年度後期 11 月、12 月開催分)

LANGUAGE SHOWER

Let's speak, listen or discuss on various topics
in **Foreign Languages**

Language Shower (LS) is the program for those who have the basic knowledge of the foreign language but are not confident of command over it. Why don't you practice it in a small group without worries about making mistakes? We look forward to your participation.

[A] group to practice **Chinese**

November 7, 14 (Wed.), and 19 (Mon.), 2012

13:00-14:30 at #304, 2F, ECIS/CALE Bldg, Nagoya University

[B] group to enjoy sessions conducted in **easy English**

November 13, 20 and 27 (Tue.), 2012

14:45-16:15 at #207W, ECIS/CALE Bldg, Nagoya University

CONDITION

[A] The basic level of Chinese is necessary. Topics are in the appendix.

[B] Sessions are targeted mainly for learners of English at pre-intermediate level (477(PBT) / 153(CBT) / 53(iBT) on TOEFL Score or 520 on TOEIC or lower).

*For the first session, we will enjoy learning some basic Spanish (or French) in easy English!

Registration is necessary

Please send an e-mail with (1) your name, (2) school/grade(status) (3) nationality, (4) group to join ([A] or [B]), (5) level of the language ([A] Chinese/[B] English).

*Due to the capacity of the room, the number of participants would be limited.

E-mail for registration & inquiries: adv@ecis.nagoya-u.ac.jp

ECIS Advising & Counseling Services (#204), Education Center for International Students, Nagoya University

•Organized by•

Nagoya University Language Shower Student Volunteers,
and ECIS Advising & Counseling Services (#204), Nagoya University



ランゲージシャワー [A] 中国語グループ



(Language Shower : for those who want to practice Chinese more!)

中国語がもっと話せるようになりたい！中国語を使う場がほしい！
でも、自分の中国語にあまり自信がない・・・そんなあなた！
ランゲージシャワーに遊びに来ませんか？
間違いを気にせず、どんどん話しましょう！

12月5日、12日、19日（水）

Dec. 5, 12, 19 (Wed.)

13:00-14:30

留学生センター304 室 ECIS#304

12月
追加セッション

Additional
sessions

中国語の基礎知識のある方を対象としていますが、興味があれば、お気軽にお
問い合わせください。(This program is intended for those who have the
basic knowledge of Chinese. However, if you have any questions,
please feel free to contact us!)

参加希望の方は①～④までの内容を明記の上、下記メールアドレスまでお申し
込みください。

Please apply via email with ①～④

①氏名（フリガナ）Name ②国籍 Nationality ③所属・学年 School・
grade(status) ④中国語のレベル Chinese level（初級 basic・中級
intermediate・上級 advanced）

申込み・問合せ先：Application & Inquiries : adv@ecis.nagoya-u.ac.jp
名大留学生センターアドバイジング・カウンセリング部門(204 室)
ECIS Advising & Counseling Services(#204), Nagoya Univ.

主催：名大ランゲージシャワーボランティア学生、留学生センター
Organized by NU Language Shower student volunteers & ECIS

ポスターは、ロコミや、学内の各部局へ掲示を依頼したり、留学生センターのホー
ムページ (<http://www.ecis.nagoya-u.ac.jp/exchange/workshop.html>) 内に掲載して
広報。

留学のとびら

Gateway to Overseas Studies

留学のとびら 2012 年度 活動報告

(文責：佐藤拓磨、松本明日美)

「留学のとびら」について

「留学」に興味・関心のある学生が主体となり、名大生の派遣留学を推進する団体である。留学生センター・海外留学室が母体となり、イベントを企画・運営するという活動を通じて、多様な背景を持つ留学仲間をつくり、自立した団体運営ができるようになるための手法を学べることが大きな特徴である。

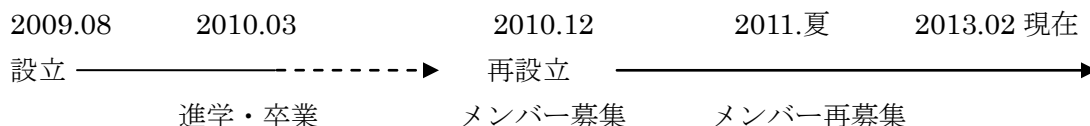
活動理念

- 一人一人が個性とリーダーシップを発揮し、互いの成長を刺激し高め合える団体。そして、大学生生活を充実させられるような笑顔あふれる団体。
- 留学を希望する名大生に、情報入手・交換の場を提供し、自らが見本となることで彼らのモチベーションを上げ、実行へ繋げていく。

設立の経緯と活動の流れ

2009 年に留学より帰国した学生が設立した「留学のとびら」であるが、2010 年より主要メンバーが卒業ならびに進学のため活動が難しくなった。そのため、海外留学室が主体となり、2010 年 12 月に新たにメンバーを募集して再設立したのが現在の「留学のとびら」である。

再結成時の主要メンバーのほとんどは 2011 年度に留学する学生が占めていたことから、2011 年の夏にメンバーの再募集を行った。そのため、2011 年度だけを見ても主要メンバーが前期と後期で入れ替わったという経緯がある。2012 度は 2011 年度後期のメンバーが引き続き活動を行った。途中で交換留学中に行っていたメンバーが帰国したり、メンバーの一部が交換留学に行ったりするなど若干のメンバーの入れ替わりが発生した。



このような経緯から、この報告書では「2012 年度前期」「2012 年度後期」について別々に紹介して行く。

2012 年度前期

メンバーについて

2012 年前期では、海外留学室が行っている「海外留学入門セミナー」にて新規メンバー募集の広報活動を行った。しかし、実際に興味を持ち留学のとびらのミーティングに来る学生はおらず、新規メンバーを獲得することはできなかった。活動に常に参加していたメンバーは、2011 年度後期からの継続メンバー 10 名程度であった。

2012 年前期の活動について

昨年度まで本団体の活動を支援してくださっていた熊坂先生が転勤されたことにより、団体運営、イベント準備の方法を一から見直す、というところからスタートした。本団体はこれまで「代表」という役職を作ってこなかったが、昨年度からの議論も含め、佐藤拓磨（工学部 3 年）を代表として運営を行うことになった。前期最大のイベントである「留学フェア」に向けては二週間に一回ほどミーティングを開き、内容を詰めていった。当日は、昨年度後期の同イベント来場者数 66 名を大きく上回る 100 名超の学生が来場し、来場者の評判も高かった。

反省点としては、リーダーを立てたために仕事の負担がすべて彼にかかってしまい、平等に仕事を分担することができなかったことである。組織運営を円滑にするために、ある程度のトップダウンは必要であると考えた結果であるが、広報、渉外、イベントの内容検討などの負担を分担させることが今後の活動の課題であると考えられる。

実施イベント

＜名大生のための海外留学フェア＞

イベント概要

2012 年 7 月 4 日（水）15:00～18:00@ベンチャービジネス・ラボラトリー

内容：

第一部：プレゼンテーション

- A. 名大理事によるプレゼンテーション
(留学することの意義や就職活動とのかかわりについて)
- B. 交換留学の手続き説明
(応募までのプロセス、留学計画、語学対策など)
- C. 留学帰国学生による留学体験談 (3 名)
(現地での生活の様子、留学費用、留学による変化など)
- D. 株式会社ディスコ前原加奈様によるプレゼンテーション
(主に就職と留学の関係について)

第二部：パネルディスカッション

留学帰国学生及び前原様による、よくある質問と会場からの質問への回答

第三部：フリートーク

留学帰国学生、名大に留学中留学生、前原様、フランス政府留学局、IELTS、TOEFL 担当者が参加し、来場者の質問に対応

スタッフ人数：14 名

来場学生数：107 名

実施アンケートの結果

回答者数：55 名

上記各セクションに対する評価（1：「役に立たなかった」～5：「役に立った」）

「名大理事によるプレゼンテーション」の平均スコア：4.02

- ・グローバル人材の話が大学生活の目標を立てる役に立ちそうだった。
- ・一年留学するのはマイナスな面ばかりではないこと、また何を学ぶかが大事などが分かった。

「交換留学の手続き説明」の平均スコア：4.41

- ・留学する前の準備など全く知らなかったから、概要は把握できた。
- ・一連の流れがとても分かりやすかったが、もう少し詳しく話してほしい部分もあった。

「留学帰国学生による留学体験談」の平均スコア：4.4

- ・留学先での生活があまり想像できなかったので、話を聞くことで具体的なイメージが出来た。留学に行く前にもう一度話を聞きたい。
- ・普段はあまり聞くことのできない金銭的な話を聞けて良かった。
- ・具体的な話でとてもワクワクした。
- ・就職のことも聞けてためになった。留学生生活を具体的に聞けて良かった。
- ・中身の薄い話だった。どっかできいたことがあるような。

「前原様によるプレゼンテーション」の平均スコア：4.65

- ・企業がどのような学生を求めているか、企業の視点から知ることが出来た
- ・自分らしさや強みを作るための留学という考え方が新鮮だった。

「パネルディスカッション」の平均スコア：4.5

- ・自分の知りたいことが聞けて良かった。

「フリートーク」の平均スコア：4.5

- ・留学生と話すことができ、これからの留学を考える良いきっかけになった。
- ・フリートークのコーナーではいろいろな人と話がしやすかった。

参加後の留学意思の変化： 3.7（1：「弱くなった」～5：「強くなった」）

- ・より留学を身近なものに感じる事ができた。
- ・今日お話をされた先輩方も留学前は今の自分と同じような心境だったんだなあと
思った。
- ・もともと留学に行くつもりでこのイベントに参加した。

もっと知りたいテーマ上位4つ

（20 票）留学に必要な情報の集め方

（18 票）何年生で留学するか

（17 票）留学国・大学・履修科目の選び方

（14 票）留学の費用

反省

本イベントの来場者数が 90 名を超えたということは、メンバーの広報活動が反映された結果とも言えるであろうし、学生の留学に対する興味関心が高まっているとも考えられる。

今回の留学フェアでは、株式会社ディスコの前原様のお話をはじめ、「留学と就職」というテーマに重きを置いた。参加者のアンケートにも、「留学した学生が企業側からどのように見られているかわかってよかった」という意見が多数あった。また、交換留学の手続きについての説明は来場者にとって有益な情報となっていたことがアンケートから明らかになった。

「参加後の留学意志の変化」の調査からは、「留学に興味があるがよくわからないので、イメージをつかみたい」と考えている学生だけではなく、「もともと留学に行く意志がある程度あり、具体的な情報を集めたい」という学生も多く来場していることがわかった。今回は前者の学生を想定したイベント内容になっていたのも、すでにある程度留学について知識がある来場者のために、更に詳しい留学情報を提供することが今後留学フェアを続けていく上での課題であると考えられる。



前期に活動したメンバーとイベント終了後の記念写真

2012 年度後期

メンバーについて

前期の途中で交換留学に行っていたメンバーが帰国したが、入れ替わりで一部のメンバーが交換留学に行ってしまったためメンバーの若干の入れ替わりは発生したが、人数自体にあまり変化はなかった。

2012 年後期の活動について

後期は交換留学応募学生のための模擬面接と留学フェアの大きく2つのイベントを行った。前期と同様、佐藤拓磨を代表として活動を行ったが、前期の反省を生かして仕事をメンバー全員で分割する事ができた。また、ミーティングの進め方も見直し、プロジェクターを使用する事で内容が濃くなり、時間を短縮させる事に成功した。

反省点として、メンバーが高学年のために、専門の勉強や卒業論文等で忙しく、海外留学室センターとの意思疎通が円滑に行えなかった事が挙げられる。また、新メンバーを大幅に得る事ができなかったため、来期に改めて募集を行う必要がある。

<平成 25 年度交換留学応募学生のための模擬面接会>

2012 年 10 月 31 日 (水) 16:30~17:30@留学生センター201 号室

対象者：平成 25 年度大学間協定校への交換留学派遣に応募した学生

スタッフ人数：6 名

参加学生人数：14 名

内容：選抜面接で自分の力を発揮できるようにするため、学生同士で面接のシミュレーションを行う。学生役や面接官役をそれぞれ体験し、客観的な視点を取り入れることで、留学計画をさらに深めることが目的。

感想・反省：イベント告知が大変遅くなってしまったため、参加者を十分に集められたとは言い難かった。担当者との連絡を円滑にし、少なくとも 10 日前には留学応募学生にイベント告知をするべきであった。参加者からは「役に立った」「面接がどのようなものか分かってよかった」との声を聴くことができ、イベント自体は成功したと言える。また、「面接練習の後にスタッフである留学経験者と話すことができる時間がほしい」という意見も多数あったので、次回からそのための時間を設けたい。

<名大生のための海外留学フェア>

イベント概要

2012 年 12 月 6 日（木）16:30～19:00@ベンチャービジネス・ラボラトリー

内容：

第一部：プレゼンテーション

- A. 開会の辞 町田教授のあいさつ
(留学する事の意義について)
- B. I) 留学帰国学生による留学体験談
(長期交換留学、短期名大語学研修プログラム経験者による経験談)
II) 世界一周経験者による体験談
- C. 留学のとびらによる海外へ出る事の意義についての発表

第二部：質疑応答

プレゼンターによる、会場からの質問への回答

第三部：フリートーク

公益財団法人日本英語検定協会、CIEE の方その他、各国の交換留学経験者、短期留学プログラム経験者、海外インターン、ボランティア、語学研修経験者を多数お呼びし参加者に情報提供を行った

スタッフ人数：14 名

来場学生数：76 名

実施アンケートの結果

回答者数：21 名

上記各セクションに対する評価（1：「役に立たなかった」～5：「役に立った」）

「町田教授のあいさつ」の平均スコア：4.5

- ・余裕を持つ事が大事なのだと分かった。
- ・トークが上手で、おっしゃっていた事にも共感できた。

「留学帰国学生による留学体験談」の平均スコア：4.41

- ・今はまだ先の話とはいえ、TOEFLなどの話や留学について大切な事を聞けたから。
- ・いろいろな方法がある事を知った。
- ・細かい話とか興味を持てる話が沢山含まれて楽しかったから。
- ・費用の事を聴けたのは良かった。

「世界一周経験者による体験談」の平均スコア：4.4

- ・行っている国がたくさんあってわくわくしました。
- ・なかなか世界1周した人の話を聞けることが少ないから。

「留学のとびらによる発表」の平均スコア：4.4

- ・プレゼンターの方が元気で、英語でしゃべれないならむしろ海外にできればいいという言葉が良かった。

「フリートーク」の平均スコア：4.65

- ・詳しい話が聞けたから。
- ・経験者と直接話す事で、有益な情報が得られた。

参加後の海外への興味の変化：3.7

（1：「行きたくなくなった」～5：「行きたくなった」）

- ・積極性、費用、英語力など問題がありますが行きたいです。
- ・海外の体験談を聞くと、より行きたい気持ちが強くなったから。

もっと知りたいテーマ上位4つ

（6 票）留学の費用

（6 票）現地の過ごし方

（6 票）留学国・大学・履修科目の選び方

（5 票）留学に必要な情報

反省

今までの留学フェアで気づいた点としては、多くの交換留学経験者が交換留学に行く前に何らかの形で（海外旅行を除く）短期間海外に滞在経験があるということであった。よって今回の留学フェアは「交換留学」に焦点を置き過ぎずに、その前のステップとなる短期留学、ボランティアなども取り上げることによって、参加者に一年の派遣留学をより身近に感じてもらうことができるのではないかと考えた。

そのために、海外経験者のプレゼンテーションでは、交換留学経験者だけではなく、短期語学研修経験者や学外から世界一周経験者をお呼びして海外の魅力についてお話していただいた。また、フリートークでは様々な海外経験者をお呼びして、参加者が自由に情報を得られるように内容の充実を図った。参加者からも「刺激をうけた」という感想を多くもらうことができた。これからもフリートークの時間を多く取り、参加者の満足度を高めていきたい。

しかし、参加者が前期のイベントに比べて少なかった。これは、広報が若干遅れた事と、開催時期が交換留学申請の時期から離れていた事が原因として挙げられる。また、イベントを企画段階で海外留学室センターとのやりとりが円滑に行えなかった。来期は、この反省を生かしたい。

来年の抱負

来年はよりイベントの内容を充実させ、より多くの学生に自らのキャリアプランに留学を選択肢として考えてもらう場を提供したい。自分の将来について深く考えるようになる事で、名古屋大学の発展に繋がることを願う。それに加え、留学のとびらのメンバーもイベントを企画運営する中で責任感、協力性を身につけ、イベントを企画する楽しさと成功した時の達成感をメンバー全員で分かち合うことのできる団体作りをしていきたい。



後期に活動したメンバーとイベント終了後の記念写真

異文化交流サークル ACE

Action Group for Cross-Cultural Exchange

異文化交流サークル ACE

2012 年活動報告

文責 代表 中谷泰介

1. What' s A C E?

○活動概要○

私たちACE (Action-group for Cross-cultural Exchange)は、「交流・架け橋・ボランティア」を三大理念に掲げ、名古屋大学に所属する留学生の生活面のサポートや毎月開催するさまざまなイベントの企画・運営を行っている。ACEは、留学生を支援し、一般学生と留学生の交流を促進することを目的として、1988 年6月全国に先駆けて結成された異文化交流サークルで、20 年以上の歴史がある。

主な活動としては、春と秋の新規留学生の受け入れ活動と、毎月行うさまざまなイベントである。

留学生の受け入れ活動とは、4月と10月に留学生を名古屋大学に迎えるための活動で、

- インターナショナルレジデンス・桜山留学生会館の入居手続きや案内
- 入居・学習オリエンテーションの手伝い
- 学内を案内するキャンパスツアー
- 周辺情報や日本での生活に欠かすことのできない情報を載せたパンフレットの作成
- ウェルカムパーティー
- 大学周辺を散策する遠足
- 留学生のためのバザー

などがある。留学生センター、NUFSA（名古屋大学留学生会）、地域のボランティア団体、インターナショナルレジデンス・桜山留学生会館の方々等と連携し、留学生が名古屋大学での生活を安心してスタートでき、学習に励める環境づくりに努めている。

イベントは、

- 日本文化を紹介するもの（七夕パーティー、もちつきなど）
- 交流の場を提供するもの（スキー、BBQ、持ち寄りパーティーなど）
- AFS A（愛知留学生会）主催のもの（春・秋のバス旅行、留学生の夕べ）

などがあり、近年では全国各地の国際交流サークルとの交流や連携も進み、多彩な活動となっている。

ACEでは、留学生との交流を通して異文化交流・国際理解を実践するだけでなく、イベントの企画・運営を通して人間的に成長できる。メンバーの自主性が最大限に尊重される点も特徴としてあげられる。

○組織○

メンバーは名古屋大学の学生を中心としているが、近隣の他大学の学生も多く活動している。

毎年6月に行われる「まじめ合宿」から2年生が中心となって運営を行っており、本年度は、代表1名、副代表1名、会計1名の役職と、AFSA班、イベント、インターネット関係の3つの役職に分かれている。班の詳細は以下の通り。

- AFSA（愛知留学生会）班：月1回のAFSA会議への参加、AFSA主催イベントの企画・運営
- イベント：ACE内のイベントの取りまとめ
- インターネット関係：HP、ML、ACEmailの管理

各イベントはチーフ・サブチーフを中心に企画・運営を行い、イベント毎にマニュアルや反省を作成し、毎年より良いイベントになるよう改善に努めている。作成したものは、ウェブ上のブリーフケースにアップして、全メンバーがいつでも閲覧できるようになっている。20年の歴史をもとに、組織化・マニュアル化を進め、運営の効率化も図っている。

2. 2012年の活動

各イベントは毎週月曜日に開かれるミーティングで話し合い、企画を進め、終了後は反省を行っている。本年は、歴史に沿ったイベントや活動だけでなく、新しい試みを行うことを心掛けた。

○1月○

もちつき



もちつき

○2月○

NCO (国際交流を实践する学生の集い in 淡路島)



NCO での発表

○3月○

スキー 追い出しコンパ



スキー

○4月○

春の受け入れ活動

新入生勧誘活動



バザー

〇5月〇
ACEEXPO2012

AFSA春旅行

BBQ 本年はNUFSAと合同で



AFSA 旅行

〇6月〇

まじめ合宿 代替わり・1年生の顔合わせを行う合宿



まじめ合宿

〇7月〇

セタパーティー 寸劇、スイカ割り、出店など



〇8月〇

木浦大学との交流

富士山企画



○10 月○

秋の受け入れ

コラボフェスタ 栄のもちのき広場で行われるイベントでちぢみを出店

A F S A 秋旅行

ハロウィンパーティー



コラボフェスタのブースにて



ハロウィンパーティー



A F S A 秋旅行でリンゴ狩り

○11 月○
秋の日帰り合宿
京都着物観光



○12月○

留学生のタベ A F S A主催のイベントで、A C Eは毎年運営に参加
P O C



冬合宿

3. A C Eメンバーに聞きました!!!

A C Eメンバーが思っていること、考えていること、学んだこと…A C Eメンバーの生の声。

○国際交流活動を通して学んだ、国際交流の上で今後活かせるヒント○

まずは国際交流に対する姿勢を身につけよう!国際交流とは…?

- 国や宗教によって文化はさまざまなので、そのことを念頭に置きよく考えて行動する（食文化や生活習慣など）。
- まずは自分の国を知るのが大事。
- 留学生が日本語に慣れていなくても、日本人が英語を話せなくても、伝えようとする意志、理解しようとする意志、つまりお互いコミュニケーションをとろうとする気持ちがあれば伝わる。

←しかし更に仲良くなるためにも英語を勉強しよう!

- 言語というツールの理解は、生活の理解につながる。
- 国際交流は特別な場で行うものだと思っていたが、そう感じていたのは日本にいた

からで、外国では日常的に行われていることであり、実際に留学生と話してみても、出身にかかわらず「友達」として話すことがすでに国際交流だとわかった。

- 育った環境が異なるので、経験したことのないこと、考えてもみなかったことなどを知ることができる。

どうすれば仲良くなれる？

- 目が合ったらとりあえず笑顔で！
- 覚えやすい、呼びやすいニックネームや愛称は親しみやすさが増す！！
- とにかく積極性が大事！！初対面でも少し馴れ馴れしいぐらいのノリで話しかけた方が相手も親しみやすい！！勇気を持って自分から話しかけてみよう！！
- 相手のことを考えるのは重要だがあまり壁を作らないこと。
- 「友達の友達」によってさらに友達の輪が広がる。
- 知り合ったらその後ちょっとすれ違う時でも名前を呼んで話しかけて、顔を覚えてもらう。
- 名前で漢字の当て字を考えたら喜んでくれた。
- 会話までは無理でも、ちょっとした各言語の挨拶を覚えておくコミュニケーションがとりやすい。
- まっすぐ目を見て話す。

話題・文化について

- 恋バナは世界共通！！
- 相手の国や文化についてたくさん知っておけば話題が広がる。
- 日本の歴史や方言、アニメ、ドラマ、アイドル、食べ物の話は共有でき興味を持ってもらえる。
- お互い知らないものは写真があると分かりやすい。
- 相手の国について興味を持っていろいろ質問すれば、相手も興味を持ってくれたことに喜んで、会話が弾む！例えば日本文化のうんちくを話して、外国文化のうんちくを話してもらうと盛り上がる。
- それぞれ自国のお菓子の持ち寄り話題のネタになる。
- スポーツ・音楽は世界共通！！
- 文化が違っていても考えていることや興味があることは変わらないと思う。
- 話せるかどうかは言語の問題もあるが、雑学や話題についての知識の多さや興味があることの共通性の方が大事。
- 食文化の違いは大きい。
- 日本語を教えるならはっきりゆっくり話す。
- 時間に対する感覚は国によって異なる。
- 日本のお菓子は人気がある。

○あなたが考える、感じるACEとは!?!○

ACEという場は…

- かけがえのない私の居場所。
- 自分という存在を1番素直に出せる場所。
- 真面目さと遊び心のバランスがとれたアットホームなサークル。
- 日本にいながら世界の生活や文化を知ることができる、ちょっとしたどこでもドア。

交流の場

- ACEは学年間の溝が少なく、みんなが一体になって留学生と仲良くなれる。
- 一期一会、出会いの場。
- ACEは一般学生と留学生を繋ぐ架け橋。
- 外国に行きやすくなる（外国の友達ができ、またメンバーも海外に行くことが好きなので、さまざまな情報を聞くことができる）。
- 受け入れ活動を通して日本での初めての友達になることができる。

発見の場

- 先輩方の武勇伝に刺激される場所。
- ACEメンバーと国際交流について考えたり、意見を交換したりすることで、刺激を受け新しい考えが生まれる。
- 新たな目標が見つかる場所。
- いろいろな人と出会うことで新たな世界、新たな自分、新たな目標を発見できる場所。
- 留学生と触れ合うことで改めて自分について考え直すことができる。
- 価値観（世界観）を変えてくれる場所（留学生と話すこともそうだが、ACEメンバー自体が個性的でいろいろな経験をしており、考え方が違うから）。
- 日本人らしさが薄まる場所、そして自分が日本人だと再認識する場所。

成長の場

- 交流活動を通して1人1人が成長する場。
- ACEは留学生をサポートしながらも友達になれる。英語のスキルも多少身につく、なによりコミュニケーション力がつく!!
- 企画運営など、活動を通していろいろな力が身につく。

4. 今後に向けて

本年行った変革として以下2つのことがあげられる。

- 今年は、代表、副代表各一名とし、ほかのメンバーを交代で副代表にすることで全体の意識向上を行なった。
- ACEEXPO2012や秋の日帰り合宿、など今までになかった活動を行った。

また来年にむけた進行中の変革として

- 受け入れの総合的な見直し
- 5月に新企画の立ち上げ
- 「真面目合宿」の改善

の3つが挙げられる。

現在のACEの活動は、24年間の先輩方が築いてくださった歴史を受けており、特に近年のブリーフケース上にあるマニュアルや反省などの力は大きく、一年のイベントをスムーズに進めることができ、安定した活動の源となっている。その一方で、24年の歴史の裏側として、サポート面・イベント面ともに活動の定例化・固定化が問題点となっている。そのため、一方的に提供する形ではなく、留学生へのアンケートや聞き取りなどを行って留学生の要望を調査し、よりニーズに沿ったサポートや交流を目指す。

名古屋大学への留学生数も増加しており、今後さらなる増加も見込まれ、私たちACEの活動の機会や範囲の拡大が期待できる。そういった状況の下で、受け入れ活動等安定した活動をもとに、新しい活動に積極的に挑戦でき、自分たちの「歴史」を築けるような体制を整えていきたい。組織・運営面では、各イベントの企画を現在のチーフ制から実行班制に移行しメンバー間のサポート・引き継ぎを強化する、活動内容の面では、規模や対象、目的を明らかにしたうえでの新たな広報方法や範囲を模索するなどの工夫も考えている。

留学生が安心して留学生生活をスタートできる環境づくりや留学生や一般学生が楽しめるイベントの企画と同時に、ACEメンバー自身も楽しみ成長しながら、三大理念である「交流・架け橋・ボランティア」をメンバー全員が忘れることなく、今後も留学生と交流していきたい。

MEIPLES

名古屋大学グローバル・リーダー育成プログラム

The MEIDAI PROGRAM for GLOBAL LEADERS

IF@N

名古屋大学国際学生フォーラム

The International Students Forum at Nagoya
University

名古屋大学グローバル・リーダー育成プログラム MEIPLES

第三回名古屋大学国際学生フォーラム IF@N

2012 年度 活動報告

編集：中野成崇

1、はじめに

本年度から留学生センター後援の下、名古屋大学グローバル・リーダー育成プログラム（以下 MEIPLES）が実施されました。当プログラムでは、グローバル化が展開する現代において活躍を期待されるグローバル人材になるために、それに必要な知識やスキルを体験的に学びます。具体的には、異文化コミュニケーション能力、協働する能力、創造力、ディスカッション能力、問題解決能力、ファシリテーション能力、多文化理解能力、柔軟性、実務能力、企画・運営能力、交渉力、ピア・サポート能力など様々な要素を身に付けるべく活動を展開してきました。MEIPLES では様々な学部、学年の学生がメンバーとして集まり、本年度前期は二週間に一回のペースで活動を行いました。後期では前期に学習し身に付けた能力を活かすべく、名古屋大学国際学生フォーラム（以下 IF@N）の運営・開催に努めました。活動は週に一回のペースで行いました。IF@N は、名古屋大学に集う様々な学生が日本語・英語による自由闊達な討議・意見交換を通じて、国際理解・相互理解を深めるために開催されるフォーラムです。IF@N は今年で三度目の開催となり、新しい試みとして南山大学や名城大学といった他大学の留学生交流団体の学生から参加して頂きました。この試みにより、IF@N のコンセプトである「出会う・繋がる・広がる」がより一層達成できたのではないかと思います。本年度の通年での MEIPLES・IF@N のプロジェクトは「グローバル・リーダー育成」という目的が首尾一貫しており、大変有意義な活動でした。

2、MEIPLES/IF@N メンバー

<前期活動メンバー>

党舒元（工学部所属）、中野成崇（法学部所属）、魯冠洋（生命農学研究科所属）
櫻庭優（農学部所属）、姜雅キ（教育発達科学研究科）、呉夢揺（法学部所属）
銭千千（文学部所属）、猪原暁（工学部所属）、菊池達也（情報文化学部所属）
中村直也（文学部所属）、ビヤムバスレン・エンフゲレル（教育学部）
麩澤優衣（情報文化学部）、遠山広夏（法学部所属）

<後期活動メンバー>

中野成崇（法学部所属）、櫻庭優（農学部所属）、呉夢揺（法学部所属）
銭千千（文学部所属）、猪原暁（工学部所属）、菊池達也（情報文化学部）
中村直也（文学部所属）、麩澤優衣（情報文化学部所属）、石坂直也（理学部所属）
井上慎哉（環境学研究科）

3、MEIPLES（名古屋大学グローバル・リーダー育成プログラム）

<前期スケジュール>

5月23日(水)	第一回セミナー：キックオフ
6月6日(水)	第二回セミナー：異文化コミュニケーション <ねらい> コミュニケーション・ギャップの体験から、文化には固有の習慣や価値観があることを理解する
6月27日(水)	第三回セミナー：自己発見と他者理解 <ねらい> 自己発見や他者理解を深める
7月14日(水)	第四回セミナー：外部講師によるワークショップ <ねらい> 自分を知る、身体感覚と繋がる、ヴィジョニング、セルフリーダーシップ理論を学ぶ 多様な背景の仲間と共同活動していくための心構えやスキルを身に着ける
8月1日(水)	第五回セミナー：問題解決 <ねらい> 問題解決体験学習で何を学ぶことができるかを、体験を通して知る 問題解決体験学習を通して、その過程で起こる様々な事柄に気付く
8月29日(水)	第六回セミナー：実務セミナー <ねらい> 議事録やアジェンダの作成方法など、実務で問われる素養の基礎を学ぶ

<活動風景>



4、IF@N（名古屋大学国際学生フォーラム）

I.各ディスカッショングループの紹介

グループA：キャンパスライフ「充実した大学生活とは？」

あなたが今までの大学生活で頑張ってきたことは何ですか？

勉学に一生懸命励んできた人、アルバイトに打ち込んできた人、部活やサークルを頑張ってきた人など、大学生活の中で様々な経験をしてきた人がいると思います。しかし、今まで自分の思いを行動に移せていなかった人もいるはずです。社会に出ていくまでの残り少ない大学生活で、本当に自分がやりたかったことができなければ、あとになって後悔しかねません。そこで、学年、専門、目標が異なる人たちと意見を交換することで、今一度自分のやりたいことを見直してみましょう。

このグループでは、まずこれまでの大学生活を振り返ることで、今まで自分がいったい何を目標にして過ごしてきたのかを明確にします。その後、ディスカッションテーマ「充実した大学生活とは？」について、様々なバックグラウンドを持つメンバーのみんなとディスカッションします。このディスカッションを通し、他の人たちの考え方と自分の今までの経験を照らし合わせることで、今一度、今後自分のやりたいことは何か、そのためには何をしなければいけないのかについて考えていきます。

これからの大学生活をよりよい方向に変えていくきっかけにしましょう。

グループB：ジェンダー「国際的にジェンダーを考える ～恋愛・結婚の視点から～」

「男の子なのだから、泣いちゃだめ」、「女の子らしい振る舞いをしなさい」、こんな言葉をあなたは聞いたことがありますか？

ジェンダーとは、「性差に意味を付与していく人間の認識や知識」のことをいいます。私たちは、生まれた瞬間から「性」を付与され、あらゆるレベルで性別によって意味づけられていきます。性が人の社会的役割や生き方を分けてしまうことがあるのです。意識や行動、ことわざなど、普段生活している私たちの身近な暮らしの中にも、ジェンダーの事例は数多くあります。もしかしたら、あなたも無意識に「ジェンダー」にしたがった振る舞いや考え方をしているかもしれません。

日本だけでなく、世界には様々なジェンダーの事例があります。まず、日本や海外であなたが知っている、もしくは体験した事例をみんなで共有してもらいます。そして、恋愛に関するジェンダーや、さらに家庭や育児など結婚におけるジェンダーにはどのようなものがあり、本来どのような性別意識が理想なのかについて、一緒に討論します。

性別という垣根を越えて、ジェンダーにとらわれない自分らしさってなんだろう？私たちが生活の中で改善すべき意識ってどんなこと？みんなで一緒に考えてみませんか。

グループ C：文化「画一化される社会をどう捉えるか？」

みなさん、普段の生活を振り返ってみると、チェーン展開するファストフード店やカフェをよく利用している覚えはありませんか？現在の国際化の流れに伴い、日本の各都市に外国企業の飲食店や衣服店が展開し、多くの日本人が利用しています。一方外国でも、日本の食文化や伝統が定着し始めており、海外にいながら日本食を食べることができます。

つまり、日本にいても外国にいても、同じ味・同じ品質のモノを手に入れることが可能になってきているのです。それは、私たちに利便性や安心を与えてくれています。また、経済の側面からも、同じ味・品質を提供することは、非常に効率が良いと言えます。

しかし、地域の特徴や伝統に配慮することなく、画一的な商品をあらゆる場所に流通させることが、地域性や伝統の消失につながる可能性はないのでしょうか。みなさんがこれまで訪問した都市のそれぞれの街並みの中に、同じ色をしたお店の看板を見たことがあると思います。今後もこのようにして、地域的・歴史的にユニークな特徴をもつさまざまな都市の世界的な画一化が進行してもよいのでしょうか？

私たち C グループでは、このような問題に対して、利便性・安心・経済・地域性・伝統をキーワードとして、今後私たちの出身地域のあるべき姿を議論していきましょう。

グループ D：英語教育「日本の英語教育を根本から見直す」

近年、世界ではグローバル化が進んでおり、日本においても英語を使わなければならない機会が増えてきています。こうした動きを受けて、文部科学省は小学校での外国語授業の必修化や、高等学校の英語授業において英語を用いて指導することを原則にするなどの改革を行っています。

日本人の英語力は諸外国に比べてかなり低いと言われていますが、皆さんはこれまでの学校教育で、英語の読む力、書く力、話す力、聴く力を身につけることはできましたか？もし身につけていないとしたら、果たして、私たちが受けてきた英語教育は何だったのでしょうか？

Dグループでは、まず日本の英語教育を振り返り、どのように日本人が英語を学んできたかを話し合います。そして、海外の英語教育を参考にしながら、これからの時代にどのような方法で英語教育が行われるべきかを考えます。

グローバル・メンバーになるために、英語について、みんなでもう一度考えてみませんか？

グループ E：国際社会「領土問題はなぜ生じるのか？～対立から協調を目指して～」

土地と人間は切っても切れない関係にあります。大地は生命を育み、人間はそれらから恩恵を授かっています。土地は人間の生活基盤と言えます。この地球上で国家が成立し始めると、土地は国土と呼ばれ国家間では境界線が引かれました。より富める国を目指すため、国家同士の領土の奪い合いが戦争という手段を通して行われました。現在であっても、

領土を巡る対立は絶えていません。

このディスカッションの中では、どうして領土のために国同士の対立が生じるのか、和解・協調するためにはいったい何が必要なのかについて、ともに考え、話し合っていきます。

はじめに、「領土」についてのみんなのイメージを模造紙に自由に書き出していきます。絵であっても文章であってもかまいません。そして、それらの中でも特に自分の思いが強かったものを、一人ずつ理由とともに発表していきます。なぜ、その絵もしくは、その言葉を選んだのかという思いも同時に述べていってもらいます。他のメンバーは、その絵や言葉に対して自分の考えを発表していきます。このような意見交換の中で、お互いの領土に対する考えを広げ、深めていきます。終盤では、全体の話をつまみ、どうしたら対立ではなく協調を目指せるのかということと一緒に考えていきましょう。

II. アンケート（一部抜粋）

① 参加人数 参加者：29名（日本人19名、留学生10名）

	日本人学生	留学生	計
A：キャンパスライフ	5名	2名	7名
B：ジェンダー	2名	2名	4名
C：文化	6名	2名	8名
D：英語教育	5名	2名	7名
E：国際社会	2名	2名	4名
総計	19名	10名	29名

（※実行委員を除く）

② 参加理由

- | | |
|-------------------------|------------|
| a. 留学生・日本人と交流したかったから | 17/28(61%) |
| b. 友達を作りたいかったから | 11/28(39%) |
| c. ディスカッションテーマに興味があったから | 10/28(36%) |
| d. 視野を広げたいかったから | 17/28(61%) |
| e. 日本語・英語を使いたかったから | 3/28(11%) |
| f. その他 | 5/28(18%) |

＜その他の記載内容＞

- ・自分の大学でもこういう活動がしたくて、参考にしたいと思ったから
- ・面白そうだったから
- ・Discussion したかったから
- ・去年参加して、今年もまた参加したいと思ったから

③ 参加者の感想

<A. キャンパスライフ>

- ・グループの皆が和やかな雰囲気を作ってくれたから。
- ・Discussion の時間がもっとながくなるともっといいと思います。
- ・楽しくて短かった。議論がいいところで終わってしまった。
- ・みんないいひとだった。
- ・もっと議論を深めたかったから。

<B. ジェンダー>

- ・ディスカッションが楽しかったからです。
- ・参加者が全員女の子だったから、とても話しやすいと思いました。
- ・予定していたことが全て行えなかったようなので、少し短かったです。
- ・発表用のポスターや内容を考える時間があまりなかった。

<C. 文化>

- ・みんな意欲的でよかった。
- ・Everyone was friendly, and we considered the aspect from various angles.
- ・司会者の進行が上手でした。
- ・時間が長くってあったおかげで交流を図り、打ち解けた上での話し合いができたから。
- ・もう少し長ければ意見をまとめることができた。
- ・意見をまとめるのにちょうどいい時間でした。

<D. 英語教育>

- ・深い話になってしまって時間内に話をまとめるのが大変だった。
- ・予備知識がなく、話をまとめることが大変で、うまく議論ができませんでした。
- ・10時から5時までではちょっと長いと思います。でも実は充実した一日でした。
- ・長すぎず、短すぎず、テーマについて話し合える時間の長さ。
- ・アイスブレイクやお昼ご飯を通してよくはなったけど、活発な議論ができたのかな...ということ。
- ・時間の経過があつという間でした。少人数議論だったので、話しやすかった。
- ・少人数で効率よく討論できた。
- ・議題の割に時間が足りなかった？ただ、少人数でみんなが話せる環境だった。

<E. 国際政治・社会>

- ・Time was appropriate but there was not time to share a lot with other groups.
- ・Just because I feel so.

Ⅲ. ミーティング記録

回	日時	実施内容
1	2012/9/5	分科会テーマ設定、ファシリテーター決定
2	2012/9/12	IF@N全体テーマ決定、リーダー・副リーダー決定、ポスター担当者決定
3	2012/9/19	IF@Nプログラム決定
4	2012/9/26	ポスター完成・掲示、参加者募集受付開始、運営担当決定
5	2012/10/3	授業広報、分科会で使用する講義室決定、分科会内容、運営担当スケジュール作成
6	2012/10/10	分科会の流れ、ディスカッション詳細決定、広報活動
7	2012/10/17	参加者決定、来賓の先生方を招待、各種運営担当報告
8	2012/10/24	備品リスト作成、各種運営担当報告
9	2012/10/31	名札作成、当日資料作成、各種運営担当報告
10	2012/11/5	予行演習、参加者へのリマインダー
11	2012/11/7	必需品運搬
12	2012/11/10	IF@N当日
13	2012/11/14	IF@N反省会(準備、当日運営に関して)
14	2012/11/21	IF@N反省会(毎回のミーティングに関して)
15	2012/11/25	報告書作成について
16	2013/1/9	第一次全体校正
17	2013/1/16	第二次全体校正
18	2013/1/22	IF@N報告書入稿
19	2013/2/12	IF@N 打ち上げ

Ⅳ. 今後に向けての課題

- ・ある議題に時間が取られ過ぎてしまい、上手く時間通りに分科会を終えることが難しかった。→ファシリテート力を付けていく必要がある。
- ・広報の連絡の際、名簿リストに不備があり告知に手間取った。→名簿リストの確認の必要がある。
- ・受付に関して、当日の出欠確認の手続きを確立しておくべきであった。→広報と受付の連携が重要である。
- ・BGM は重要である
- ・運営に関して、担当同士でもっとコミュニケーションをとり役割分担を行っていく必要がある。
- ・分科会において、5 グループ中、E グループのみが英語でのディスカッションであった。→英語でのディスカッションを増やしても良いのではないか。

V. 実行委員感想

この数ヶ月間で、本当にいろんなことを学びました。自分たちでイベントを創り上げることの大変さ、ファシリテーションの難しさ…。しかし同時に、この IF@N が無事成功したという喜びや達成感、自信も得ることができました。もちろん、今回の成功が、このイベントに関わった全ての皆さんのおかげであることは、言うまでもありません。本当にありがとうございました。

IF@N が終わった今、数ヶ月前に比べれば、少しは自分が成長したような気がしています。今回の経験を糧にして、今後の自分に生かしたいと思うし、皆さんにとっても、今回の IF@N が人生の糧になるような経験として、いつまでも残るものであって欲しいと願っています。

VI. アルバム

<IF@N ミーティング>



ミーティング中！

ドキドキ、わくわく



良いゴーヤーが

取れました！



<IF@N 当日!!>









5、まとめ

本年度は MEIPLES・IF@N での通年の活動でした。メンバー同士仲良く、和気あいあいと活動を盛り上げていきました。これからさらに活動を盛り上げていきたいと考えています。

NUELC

Nagoya University English Learning Center

NUELC

Nagoya University English Learning Center

文責 文学部 3 年 北村昌也

1. 団体について

1. 団体概要

我々NUELC は英語を普段から話したい人のためにそのための部屋を開放し、英語を話す場所を提供する団体である。平常時は部屋を開放して英語を話し、それ以外にも英語を話すためのイベントを一般に向けて開き、英語を気兼ねなく話す場所を提供してきた。

2. 設立動機

2011 年 9 月、オーストラリアのモナシュ大学で一か月間の語学研修プログラムに参加した名大生により設立。現地で様々な国の人たちと出会い、話し合うことで普段は感じる事ができない文化や価値観の違いに直に触れ、英語を用いたコミュニケーションの大切さを痛感したのがその最初の動機だった。当時、名古屋大学内に英語を常時堂々と話せる場所は存在しなかったため、南山大学のワールドプラザを参考に英語を気兼ねなく話せる場所を作ろうと発案。約半年間の大学側への働きかけの後、2012 年 3 月に部屋とともに誕生。立ち上げメンバー 3 人を中心にスタッフを募り、同年 4 月から運営を開始する。

3. 場所

国際言語文化研究科棟 1 階 102 教室

2. 2012 年度前期活動内容

1. 立ち上げ期(4 月～5 月上旬)

2012 年 4 月 23 日、NUELC は晴れてオープンした。NUELC 設立が決まってからはスタッフを集め、スタッフのシフトや部屋の内装など様々準備はしたものの、ある段階から「実際に開けてみないと分からない」ということになった。実際開ける前から考えても正確には分からない部分も多く、失敗なら失敗で早く軌道修正すればいいということで、準備が一部整わないながらも開館に踏み切った。

ところが、スタッフのシフトのシステムなどがあまりに整ってなかったことが判明したため、結局一週間開館した後一度閉館することになった。そして 5 月 11 日に英語パーティを NUELC で催した後、5 月 14 日に再開した。

問題点

①カギの受け渡しがうまくいかない

鍵を取りに行く際、学生証を守衛の方に渡さなければならないので、鍵を取りに行ったスタッフは帰宅する前に一度鍵を返却して学生証を取りに行かなければならなかった。つまり鍵を前のスタッフから次のスタッフに引き継ぐ時、もし前のスタッフがそれで帰宅する場合、学生証を取りに鍵を返しに行かなくてはならないが、その場合一度部屋を閉めなければならなかった。

②スタッフの立ち位置

最大の問題と思われるが、スタッフが部屋にいたところで話はなかなか盛り上がらなかった。もちろん来室者やスタッフの性格によるところも大きかったが、「雑談場所だから勝手にしゃべってもらえばよい」というスタンスではグダってしまった。これでは来た人がまた来ようとは思にくい。そこで「スタッフとは何なのか」が問題となり、スタッフがどう話を振り、どうコミュニケーションを前へ進めていくかが課題となった。

③自習スペースの使い方

当初はスピーキングスペースと自習スペースを設け、両方やることとした。部屋の性質上発音練習なども自由にできるため、事実上勉強しようと思えばDVDでも見ない限り何でもできる形となったが、根本的な問題が発生した。来室者は皆部屋の売りである「英語を気兼ねなく話せる」ことに関心を寄せているため、誰も自習などしには来ないということである。そこで自習スペースはどうするかという問題に直面した。

④スタッフの少なさ

スタッフの立ち位置の問題が生じたり、スタッフの負担も軽くはないため、なかなか集まらなかったが、シフトをしっかりと組んで開館時間を長くするには明らかに人数は足りてはいなかった。

2. 安定期(5月下旬～6月)

この時期は立ち上げ期のどたばたも一段落し、活動としては落ち着いてきた頃だった。スタッフも活動に慣れ、NUELCにいるのが半ば当たり前になりつつあった。来室者の数は安定してきており、固定した時間帯に毎週来る人もいたが、裏を返せば新歓期の真新しさが薄れたために新規の来室者の獲得には苦労していた。同時にスタッフ探しもなかなかうまくいかず、苦労していた時期でもあった。活動としてはまだ細々とはしていたが、スタッフの無理のない範囲でやっていた。この頃は小さなディスカッションイベントを開いてその後のイベントの方向性などを模索していた。また、部屋の壁やホワイトボードによく使う表現を少量ではあったが掲示し、見やすくするなど一部部屋の内装を改善した。

問題点

①来室者数の固定

よく来てくれる人が固定的になってきた反面、新しい来室者がなかなか増えなかった。一つには宣伝が頭打ちになってきたというのがあったため、その後のイベントの機会を生かして新たな来室者を増やしていきたいと考えていた。

②開館している時間数が増えない

一応スタッフが4名増えたが、皆来れない時間はどうしてもあり、またスタッフも忙しい人が多かったため、閉まっている時間は短くなかった。そしてこれが顧客離れに影響していると考えた。つまり来たはいいが閉まっていた、とか、来室したはいいがすぐ閉まってしまった、など。Facebook と ML で開館時間を知らせていたが、それらに登録していない人は部屋の外まで来ないと開いているかどうか分からないという状況だった。

③インプットの不足

インプットがなかなかできず、アウトプットに完全に偏っていたので、英語力が上がっているかと言えば、多少話すスピードが速くなった以外疑問であった（これはスタッフが主に感じていた）。アウトプットの体制は割と整っていたので、問題はいかにインプットを入れて英語力を伸ばすか、であった。

3. テスト期(7月)

テスト前ということで来室者は減り、またスタッフの方もテスト前ということもあってシフトが厳しくなった。そういうわけで NUEL C の平常活動は割と閑散としていた。ただ、ACE や Language Shower との合同イベントを行って好評に終わり、「英語力が上がる気がした」という感想をいくつかいただいた。

※イベント概要

(1) ACE とのイベント

◆日時・場所：

7月3日（火）18：00～19：30

NUEL C の部屋

◆目的：①本物の英語に触れることによる英語コミュニケーション能力の向上。

②国際交流、異文化理解

→海外への関心を高め、英語学習意欲を高めることにつながる。

(NUEL C の活動の宣伝、ACE の活動の宣伝)

◆企画概要：

人数、5人×4グループ程度で小グループを作って、その中の2グループは「日本のココがすき！」について、残りの2グループは「日本のココが変！」についてディスカッションをしてもらう。その際、留学生をグループごとにばらけて配置し、その留学生のテーマへの答え（例：日本は寿司がうまい。など）についてみんなで話し合う。そして、その話し合いの内容をグループの一人がメモしておき、最後に全体で各グループで話し合った内容を共有する。

◆イベントの流れ：

グループ分け（5分）

留学生の方には留学生の方用のくじを、参加者の方には参加者の方用のくじを引いてもらうことでグループを分ける。

↓

イベントの概要説明、武田挨拶（5分）

↓

自己紹介（5分）

↓

アイスブレイク（10分）「find story」

- ① 参加者全員に1枚の絵を配布する。
- ② 各グループにその絵を並べ替えて4コマ漫画を作ってもらう。
- ③ 1グループ5名なので5枚の絵がある。つまり1枚ダミーが混ざっているので、それを見つけ出す作業を相談しながら行ってもらう。
- ④ ①～③までを“言葉を使わずに絵だけを見せて行う”バージョンと“絵を見せずに言葉だけを使って行う”バージョンの2通りで行う。

↓

トピックについてのディスカッション（30分）

各グループにはワークシートを配布して、そのシートをもとにディスカッションを進めていく。いきなりディスカッションに入るのは無理があるので、導入部分を率先して NUEL C のスタッフ（できれば ACE さんのスタッフも）が行う。

↓

全体での共有（15分）

↓

リフレクション（10分）

各グループの発表をもとに、再びグループごとに簡単に話し合ってもらう。感想やこの企画を通しての気づきなど、話し合う内容についてはフレームワークを設けない。

◆アンケート結果（抜粋）

1. イベントの良かった点

- ・英語を普段しゃべる機会がないのでありがたかった。
- ・普段とは違う雰囲気を味わえたこと。
- ・すべて英語という環境がとても良かった。
- ・ You can get to know new people.

2. 改善すべき・不満な点

- ・お菓子があったら嬉しい。
- ・留学生が少なかった。とくにネイティブ。
- ・もう少し長い時間話してみたいと思った。
- ・ I think that is a bit too much time focused on the organizers talking.

(2) Language Shower とのイベント

◆日時・場所

7月13日（金）5限

NUELC の部屋

◆当日の流れ

テーマ「理想の夏休み」

1. 来場者に席の券を引いてもらい、決められたテーブルに座ってもらう。
↓
2. テーブル内で自己紹介。このとき、「Good&new」という、24 時間以内で自分に起こった良いことまたは新しいことを話してもらう。（15 分）
↓
3. 各々が自分の「理想の夏休み」を考える。（5 分）
↓
4. グループ内で各人、自分の「理想の夏休み」を発表（10 分）
↓
5. みんなの意見を集めて、グループで「理想の夏休み」を考え、3 分くらいの寸劇を作成（30 分）
↓
6. みんなの前で寸劇を発表（20 分） 1 グループせいぜい 5 分
↓
7. アンケート記入(5 分)
↓
8. 各団体の紹介（5 分）

◆アンケート結果

1. イベントの良かった点

- ・チームメイトと仲良くなれた
- ・英語、中国語をたくさん使えた・どっぷり浸かれた グループで話し合う必要があったので、会話力が上がった
- ・劇が楽しかった

2. 改善すべき点

- ・近すぎて、ほかの班の声が聞こえた
- ・人数が少なかった
- ・中国語のスキットは要所で説明してほしい
- ・考える時間が短かった

3. 2012 年度後期活動内容

1. 初期(10 月)

夏休みに海外に出ってしまうスタッフが多く、話し合いの場を持てなかったため、最初の週は開けず、2 週目からの開始となった。

この頃になると NUEL C の認知度が上がってきていた。夏にモナシュ大学に派遣された学生もそうで、また他団体から噂を聞きつけて来た人もいたり、後はスタッフが友人や後輩を呼んだこともあった。来室者数は増えてきていた。

活動としては前期とあまり変わってはいなかった。活動の中に TOEFL のスピーキングパートのようにあるトピックを見て、一定時間内で意見をまとめ、一定時間内で発表するという活動を通常活動に取り入れはしたが、なかなか定着せず、結局前期同様の活動に落ち着いたという状態だった。ただ、イベントの数は前期と比べると減った。人員が足りないのと、スタッフ一人一人がさらに忙しくなったことが理由に挙げられるが、「どんなイベントをやれば名大生が英語学習に意欲を持ってくれるか分からなくなってきた」という迷いも一部にはあり（実際イベントを企画しても人が集まらず断念したことが当時あったため）、そういう意味ではやや慎重になった。

問題点

①スタッフのモチベーション

立ち上げ期から関わった者はそれなりの意欲を持って取り組んでいるが、後に我々が来室者の中から勧誘して入れたスタッフは、そろそろ NUEL C の活動にも飽きてきている雰囲気

を感じた。その一番の理由は、NUELC は来室者のことばかり考えていて、結局スタッフの英語力が伸びておらず、何のためにスタッフをやるのか、スタッフをやって何のメリットがあるのか全く分からない状態であることが挙げられた。実際 NUELC のスタッフになるメリットはせいぜい「団体運営に関われる」くらいのもので、最も活動に関わっているスタッフの英語力が伸びないのにどうして来室者の英語力が伸びるのだろうかということになり、活動を見直そうと言う段階に入っていた。当初目指していた「英語を話せる場所の提供」は、時間は短いにしても、一応出来ていた。その中での英語による雑談も出来ていた。しかし、この頃悟りつつあったのは、「でもそれだけでは駄目なんだ。それでは英語力など伸びはしないんだ」ということだった。英語を話せる場所の提供を理想として NUELC は設立され、そして目の前にある現実が当初の理想をある程度は実現した形ではあった。ただ、その理想そのものがそもそもあまり英語力を伸ばすことには効果的ではなかったのだと悟り、理想が壊れた状態、次なる理想を模索しようとしている段階にいた。

2. 転換期(11月～12月初旬)

11月6日に Language Exchange というイベントを行った。留学生がなかなか集まらず、日本人学生とのバランスが悪かったり、そもそも予定人数より少ない人数しか当日来なかったりと問題は色々あったが、いざやってみると「このように英語をひたすら話す機会がなかなかないので新鮮だった」というような感想を多く頂いた。

問題となっていたスタッフ間のモチベーションについては、スタッフからヒアリングした結果、それぞれ英語に対する思い、都合が全く異なり、ヒアリングから共通項を見つけるのは不可能と判断した。そして立ち上げ者の伊佐地と私、そしてそのミーティングの場にいたスタッフで様々意見を出し合い、共通項を抽出した結果、「書ける英語を話せる英語へ」という目標が生まれた。これは、英作文をする際に英文を書けるが、英語を話す時になるとそのような英文が口から出てこないため、書く時に書ける英語、つまり自分の中の最高レベルの英文を話せるようにしよう、という趣旨であり、これを軸に今後の NUELC の活動を考えて行くことになった。

そしてその活動の手始めとして始めたのが「瞬間英作文」である。これは来室者にはまず教材を用いて 10 分ほど瞬間英作文、つまりペアの片方が読み上げた日本語文をもう片方がその場で英語に直し、間違えたところや知らなかったことをノートにメモっていくというもので、英作文知識などのインプットと、瞬間的に英文を組み立てるというアウトプットの両方を行えるものだが、実施方法はまだまだ検討の余地があった。

さらに、NUELC の開館方法を 12 月からリクエスト方式にした。これは facebook で NUELC を開けてほしい日時を募り、それに合わせて開館し、リクエストが少ない場合はシフトを組んで開館するというもので、リクエストを募ることで必ず人が来る事が確定している分スタッフもやりがいがあり、無駄がないと判断したからだった。

また、ミーティングが木曜業後に変更された。時間は 1 時間半を目安にした。これによって今までより長い時間話し合うことができるので、話し合いが終わらず次回に先送り、ということがなくなるようにした。

※Language Exchange 概要

◆日時・場所

11 月 6 日（金）18：30～20：00

全学教育棟 C34

◆目的

このイベントに参加することで、留学生は日本人の友達を、日本人学生は留学生の友達を作ることができる。さらに、留学生は日本語を話し、聞くいい機会となり、日本人学生は英語を話し、聞く練習をすることができる。

◆内容

内容：英語を学びたい日本人学生と日本語を学びたい留学生が向かい合って座り、ある特定のトピックについて数分間は英語で、数分間は日本語で話す。

◆当日の流れ

18:10 留学生センター前集合・引率

18:30 イベントについての説明開始

18:40 イベントスタート。各ペアは互いに 15 分間（約 5 分間は英語で、約 5 分間は日本語で、そして 5 分間はフィードバック）話す。約 60 分間で 4 セット行う。1 セット終わるごとにローテーションをする。

19:40 フリートークスタート

20:00 イベント終了・解散

◆アンケート結果（抜粋）

- ・時間が短い。もっと多くのトピックについて話したかった。
- ・もっとこういったプログラムを増やしてほしい。
- ・よい経験。今後もやってほしい。
- ・グループで話す場もあればよかったと思う。
- ・なかなかない機会なので今後ももしあればぜひ参加したい。

3. 低迷期(12月中旬～1月)

NUELC を予約制にした結果、予約して来室することになったため、むしろ人はかなり固定化した。予約してまで来るか、というところが懸念されていたが、やはり予約してまで来るとなると敷居が高くなり、人の数は減った。ただ、このシステムはスタッフにとって無駄がなく、来るかどうかわからない来室者を2名ほどのスタッフが部屋で待つというのはスタッフにとっても苦痛だったので、部屋を空ける時間に人が必ず来るというシステムはその意味で効率的だ。

瞬間英作文の方は、活動時間によってはやらないこともあるが、大方実施した。「書ける英語を話せる英語へ」という目標を掲げたことで活動の方向がかなりはっきりし、この活動を面白いと言ってくれる人も中にはいた。ただ、どう英作文の問題をお互いに出題し、どう答えを合わせ、自分の知識の増加および定着に持っていくかはまだ考える余地がかなりあるので、実施方法はまだまだ工夫していく必要がある。

また、これはスタッフ間のみであるが、ペアで写真および絵を見てそれについて1分間で説明し、どれだけ多くの語数を話せるかを測る活動や、単語を別のより簡単な語に言い換える練習をする活動を試験的に実施し、それぞれ流暢さと言い換え力の向上を目指していた。これらの活動はまだ効果が出るかわからないので、しばらくはスタッフ間のみで実施して実験していこうと考えていた。

ところがこの頃から NUELC の方向性が再び怪しくなってきた。勉強がしたいのかただ英語を話したいのか、英語が話せさえすればいいのか実際に英語力を伸ばしたいのかなど、新たな活動を考えるたびに「そもそも NUELC は何をするとところだっけ？」という疑問が生まれ、また議論が振り出しに戻ることがしばしばあった。立ち上げメンバーが明確な目標を示し切れなかったことに起因するが、これは今後も考えるべき課題であった。

問題点

①予約制によって予約してまで来る人が絞られてくる。

②瞬間英作文の違和感

「これを NUELC でやる必要があるのか」という疑問がスタッフ内から出ており、少々疑問を感じながらやっている人もいた。結局いつも出る意見として、「一人でできることを NUELC でやらなくてもよいのではないか。そして一人でできるものなら一人でやった方が効果があるのではないか」というのが挙がってきたが、この意見に対して確固とした答えはいまだに出せずにいた。

③勉強型の活動

最後2つの活動について、そもそもこれをやるためにはたして NUELC に来るだろうか、という疑問はぬぐえなかった。効果があるにしても、面白くなければやはりあの部屋までは来る来ないだろうと考えられるが、では今までの通常活動を続けていけばいいのかとい

うと、結局ただ話しているだけではスピーキング力はたいして付かない（個人差はあると思うが）ということがほぼ判明したので、しゃべるばかりでもいられない。ここが難しい判断で、今もどういうバランスでやっていくべきか検討中である。

4. 総括

この一年を通じて NUEL C に欠けていたものは、「明確な目標設定」と「計画性」であった。

まず目標設定であるが、立ち上げ期ははっきりしており、「英語を話す場所の提供」であった。ところが時間が進むにつれてマンネリ化が起き、後期になり、英語力の向上があまり見られず、またスタッフをやるメリットがなかなかない中で徐々に「このままでいいのか」というある種の不信感が生まれたころから NUEL C の活動はブレ始めた。「英語をただ話すのではなく勉強をしっかりとしよう」ということになり、どの程度英語力を伸ばすかについてまで考え始めていた。それ自体悪いことではないが、当初の目的であった通常活動はかなり軽視始め、かといって新しく始めようとする活動が整うこともなく、非常に中途半端な状態になった。また、その目標に固執し始めたために排他的になり、ただ英語を話したいという願望を団体内でも圧殺する空気があったため、結局勉強を真面目にしたいのか英語をただ話したいのかよく分からなくなってしまった。これが低迷の主な原因の一つである。

また、「計画性」の問題も大きかった。突発的にイベントを企画しては準備不十分で実施できなかったこともあった。また、特に前期はミーティングの時間も短く、話し合いが先送りされることもしばしばあったため、計画をじっくり練ることをなかなかしなかった。これが結局役割分担の曖昧性にもつながった。このような無計画性によって体系だった活動にならず、それが積もりに積もって結局「何をしたいのかよく分からなくなった」原因にもなった。

NUEL C 最初の一年は決して成功とは呼べない。失敗や不満足感を数多く経験してきたが、その分数多くのことを考え、話し合ってきた。今まで考えてきたものは無駄にはならないだろう。まずは目標を明確に設定すること、そしてそれを実現するための綿密な計画を逐一立て、頻繁に見直し、確実に実行していくことが最大の課題であるため、これまでのアイディアは生かしつつ、一年目の問題をまずは乗り越え、団体のしっかりとした基盤作りをしていきたい。

2012年度名古屋大学国際交流グループ
活動報告書

発行日 2013年3月31日

留学生センター アドバイジング・カウンセリング部門